### 国民と森林

1986年·新春第 15 号



国民森林会議

菊池 戦前から二十年近くも中国にいまし十三年も送ってこられたのは……。―― 菊池さんが、中国ヘケヤキの苗やタネを

平原や丘陵に植えたいと思いました……。 木が世界に誇る銘木のケヤキを中国のハゲた た。中国は戦争や生活のために森林を失い、た。中国は戦争や生活のために森林を失い、 カカー 戦前から二十年近くも中国にいまし 瀬池 戦前から二十年近くも中国にいまし

本からの直行便の飛行機もない頃でしたので、 本からの直行便の飛行機をない頃でしたので、 なお声でした。廖先生が空港まで出迎えて下 電話の向うで涙しておられるのがわかるよう 電話の向うで涙しておられるのがわかるよう なお声でした。廖子生が空港まで出迎えて下 なお声でした。廖子生が空港まで出迎えて下 なお声でした。廖子生が空港まで出迎えて下 なお声でした。廖子生が空港まで出迎えて下 なお声でした。廖子生が空港まで出迎えて下 なお声でした。廖子生が空港まで出迎えて下 なお声でした。廖子生が空港まで出迎えて下 なお声でした。廖子生が空港まで出迎えて下

を転機に私の考えを実行しました。当時は日

一九七二年に国交が回復しましたが、それ

## 緑のカケ橋日中に

13年ケヤキを贈り続けた菊池善隆さん

えです。ですから苗畑も北京・上海・南京と にその苗木を植えて、緑の長城、をつくる考 り、 本と送りました。しかし、あの広い国土です いける」ということで翌年から三百本・五百 ことが翌春にわかりました。そこで「これは えましたが、その冬を越しても全部活着した とも話し合っています。 大運河ぞいの主要都市で十四カ所もあります。 から苗木では気の長い話で、そこでタネを送 して植えたいと思い中華全国青年連合会の方 一年ぐらいかけて、春先に中国青年を大動員 その苗木を北京の国立・市立の植物園に植 苗木も大分育っていますので八六・七年と 北京から杭州までの千八百キロの運河ぞい 向うの苗畑で育てることにしました。

会終身専門委員会終身専門委員会終身専門委員会終身専門委員、日本ユース・ホステル協術協力会副会長、日本ユース・ホステル協定を、戦後は日米実質合弁の石油会社社長な官。戦後は日米実質合弁の石油会社社長な官。戦後は日米実質合弁の石油会社社長な官、戦後は日米実質合弁の石油会社社長など歴任。中日友好植樹会代表、東方科学を卒業後、一九富山県生れ、九州帝国大学を卒業後、一九〇六(明39)年をくちよしたか氏。一九〇六(明39)年

ことで心の慰めにもなり、公にもつくす。 とで心の慰めにもなり、公にもつくす。 おありませんでした。共同植樹によって新らしい時代のスタートを切るわけでもあります。 か、私は孤児たちに百本でも二百本でも苗木が、私は孤児たちに百本でも二百本でも苗木が、私は孤児たちに百本でも二百本でも苗木が、私は孤児たちに百本でも二百本でも苗木が、私は孤児たちに百本でも二百本でもあります。 日中民族が共口日中青年の手で植えました。日中民族が共

### 緑づくりは平和の天使

ましたが ―。 ― そうしたお仕事はすべて自費とお聞きし

――にしていては途中でダメになります。自分の一 菊池 ささやかですが ― 。人の金をあて

きで訪中しましたが、ケヤキ千五百本を持参

自分の

### 目 次

季刊 国民と森林 育
No.15 1986年新春号
〈巻頭インタビュー〉
緑のカケ橋日中に 菊池善隆 2
<b>〈写真〉</b> 国際森林年でした 4
〈新春座談会〉
21世紀につなぐ運動を 6
国民森林会議の4年
隅谷三喜男/井出孫六/杉本一
〈てい談〉
山村をゆるがした日航機墜落11
大野盛雄/黒澤丈夫/内山節
中国の林政・社会、見聞 萩野敏雄17
〈提言案特集〉
■森林の中に明日がある21
一地域の森林会議を明日の山村活性化のキ
ーワードとして一
座談会 山村の明日をさぐる22
大野盛雄/松澤譲/内山節
■国民のための国有林を27
―地域に根ざした公益性の追求を提言する―

表紙 谿若葉 東山魁夷 1976年 50.6×60.5 cm 第8回五山会展出品

提言をまとめて

切抜き森林・林政ジャーナル(7-9月)…36 会員の出した本〈木と森の文化史〉……38

会からのお知らせ……………38

インタビュー

暗い杉の谷を背景に若葉が明るく浮ぶ山の 斜面。すぐ近くにうぐいすが澄んだ声で歌っ ている。

> 隅谷三喜男 目次題字 森前しげお カット

ことをやるヒマがよくあった」と思いますね。 国境なし、 話があります。関心はあるのですよ。 が新聞にでると三百人もの人からお手紙や電 ていればこうした協力も得られる。 川県知事が苗木を寄付してくれました。 てみようということになりましたが、中西石 からアスナロはどうかと思って千本ほど植え い」といって下さる。中国は寒地で乾燥地だ があってそこで育てていますが、町長さんも 熱心で、外の仕事までしてくれます。 を説得するのが苦労でしたが、 金でやれることをやれば長続きしますよ。妻 「意義ある仕事だから町の土地を使って下さ 苗木は群馬県の長野原町に私の友人の土地 人生を振りかえって見ると、 民族に差別なし』です。 今は妻の方が 「これだけの 私のこと "緑に やっ

世界の平和につながると思う。 と表現した碑を建てたいと思っています。「過 敷地に周恩来先生の言葉を「前事是後事之師 とになったが、これも私の目標の一つ。この なたこそ平和賞にふさわしい人」と手紙にあ で刺しゅうした錦旗を贈ってくれました。「あ ことになりましたが、それを伝え聞いた中国 去のことを将来の師としよう」ということが ター」が日本の無償資金協力で建てられると 人たちが「緑色天使」と絹のドンスに金絲 昨年四月訪中の直前胃かいようで入院する

りましたが、

民衆がこうした気持を持ってく

大内力28

(氏名敬称略)

くる。 録」を書いていると、これからの目録もでて そこで「人生目録」を書き始めた。 方メートルの敷地を持つ「国際青年交流セン 北京の天安門広場の東十キロに五万平 「人生目

である。一人が年に五株を活着させれば、今 中国山野の緑復活も。衆の努力と忍耐の結集。 習癖の採長補短で新国際社会への貢献を期待。 そ力の根源で卑下するなかれ、④努力と忍耐 実践することも考えてほしいですね 切だが『象牙の塔』から出てほしい。 地球緑化の第一歩」という気持で接していま の習俗的個性とこれと綾なす不覇不離の民俗 会のために尽すべき大資源、 林会議はそのための提言をするだけでなく、 世紀末には一千億株の緑復活となる。これが、 私は中国にたいし、「①相互の切瑳琢磨こそ ②世界の四分の一の人口こそ新国際社 ③低生活民度と 国民森

れたことが嬉し 緑づくりは実践だと思う。 理論も研究も大

## 昨年は国際森林年でした。全国各地でこれにちなんだ行事がくり広げられました 「緑」や「森林」への願いをこめた人びとの多さにあらためて驚かされました。

### 国際森林年でした



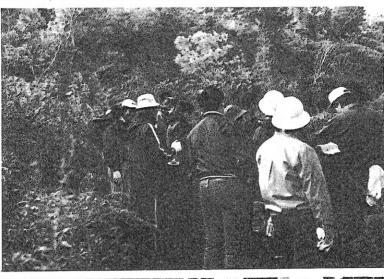
ゼント 4月20日苗木と花の配布会、都民五千人にプレ (写真・林野庁提供)

ど内外の有識者の提言に耳を傾けました。 ジウムには市民をふくめ四百人が参加、作家 ・倉本聡さんやFAO、F・H・セネ調査官な (写真・林野庁) 十月十四日開かれた国際森林年記念シンポ

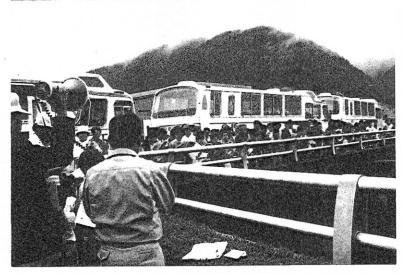


### 山から川下まで

考える市民の集い(10月5・6日)上・北海道中標津町での「山を見る会」(10月5日)、中・「ボクも切れるぞ」大阪のフェステバルで(10月20日)、下・名古屋の飲み水を上・北海道中標津町での「山を見る会」(10月5日)、中・「ボクも切れるぞ」大阪のフェステバルで(10月20日)、下・名古屋の飲み水を







### 〈新春座談会〉

### 二一世紀につなぐ運動を 一国民森林会議の四年一

四年間に大きく進んだ意

RA まず会長から国民森林会議の四年間の

内れわれが先鞭をつけたといえますね。 は、 国民の間で森林問題がまだ大きく は、 大きな共鳴を呼び は、 大きな共鳴を呼び は、 大きな共鳴を呼び は、 大きな共鳴を呼び は、 大きな共鳴を呼び は、 大きな共鳴を呼び は、 は、 大きな共鳴を呼び は、 は、 大きな共鳴を呼び は、 は、 大きな共鳴を呼び は、 は、 大きな共鳴を呼び

司会 設立総会の時に、上野村の黒澤村長が「とういう会のできるのを待っていた。 いくら「とういう会のできるのを待っていた。 いくらが会議に最初から参加なさった動機はなんでしが会議に最初から参加なさった動機はなんでしが会議に最初から参加なさった動機はなんでしが会議に最初から参加なさった動機はなんでした。

井出 私は大岡昇平さんの『武蔵野夫人』にでてくる恋ケ窪の近くに一九六一年から住んででてくる恋ケ窪の近くに一九六一年から住んでです。私自身にも、そうした武蔵野を侵食した武蔵野はなくなりました。チェンソーで林がき別はらわれていき、一週間おきに風景が変るという状況を見ていて、お役に立たないが、そんら、お誘いを受けて、お役に立たないが、そんら、お誘いを受けて、お役に立たないが、そんら、お誘いを受けて、お役に立たないが、そんら、お誘いを受けて、お役に立たないが、そんら、お誘いを受けて、お役に立たないが、そんら、お誘いを受けて、お役に立たないが、そんら、お誘いを受けて、お役に立たないが、そんが、お誘いを受けて、お役に立たない。

司会 三浦綾子さんも「美しい国土と緑を子で迷うことなく加入したといっておられましたなってきました。国民森林会議としても打開のなってきました。国民森林会議としても打開のなってきました。国民森林会議としても打開の道をさぐることも大切ですが、隅谷会長はどう道をさぐることも大切ですが、隅谷会長はどうできました。

実をふまえて、どのように活動を展開し、二一世紀へつなげてゆくか、きょうは隅谷会長 ろの催しもあり、このところ森林・林業への国民的関心は高まってきていますが、これを 集りいただきました。 と発足以来の会員である作家の井出さんにお話し合いをしていただこうということで、 過性のものにしてはならないと思います。そこで、これから国民森林会議としては、現 国民森林会議が発足して丸四年になりました。昨年は国際森林年ということで、 (司会者あいさつより)。 いろ



司会 杉本 森林文化協会常務理事



東京女子大学長 国民森林会議会長



井出 孫六 作 家

木材をめぐる経済的な問題があるし、

数十年前のことなんですが、うっそうとした武 独歩の『武蔵野』を読み直してみたんですが、 直されてもいいのではないか。この間、 山へ行く(笑い)。日本人の自然への感覚が問い という感覚で、テニスのラケットを持ってなら では五―一〇%。いまの学生は登山は"ダサイ" う人は、 出ていましたね。「旅行に森へ行きたい」とい たように思いますが。 蔵野はどこかに消えてしまった。 『武蔵野』の舞台は渋谷村なんですね。 井出 西独の都市では六〇%強なのに、日本 『国民と森林』に森林観の国際比較が わずか 国木田

ような カラマツ林など自然に親しむ良さが魅力だった 牧師さんが明治二十年代に開いたんで しかし、 軽井沢も外人が開拓したんでしょうか。 今は六本木をそっくり移した

進み、木が伐られる。木材の需要と外材輸入と ということがわれわれに与えられた課題でしょ 複雑なことを調整しながら自然をどう守るか― という善意だけでは解決がつかない。そうした が複雑にからんでいる。だから「緑を大切に」 自然の中で生きている山村の人たちには、 強いものもある。それも大切ですが、同時に、 工業化が されて、 あそこを通っているが、カラマツの美しさを詠 うことです。その評論家は「一茶はしばしば、 すね。 マツが明治の中頃になって美しさを持ったとい がわからなかった。ツルゲーネフの小説が翻訳 んでいない」といっていますが、一茶があそこ いっていますが、この説に私は異議があります。 江戸時代に父祖たちによって植えられたカラ ある文芸批判家は「日本人にあの美しさ 初めて林や木の美しさがわかった」と

歌いましたが、そのころになって初めて完成さ 原白秋が日本人として初めてカラマッの美さを 風景を作ったのはボクたちの父祖なんです。北 その火山灰地にカラマツを植えて、 を通った頃は、天明の大噴火で火山灰地だった。 れた美しさになったんだと思います。 あの美しい

とさえいわれた。八○年代に入って様相は変っ 代は高度成長への批判から国有林は『山荒らし』 て、まよわず木を植えることができた。七〇年

司会

一九六〇年代は、将来への期待をこめ

した。 そのまゝ。何もしない。そのため病気が出まし て、病原体がトラックであちこちにばらまかれ ツから発生したんでしょうが、こわいと思いま ました。一週間それが続きました。あのカラマ をくぐって、机の上に蛾が掃くぐらい寄ってき の仕事場で仕事をしていましたら、網戸のアミ て全県的に枯れ始めています。昨年の夏、 そのカラマツが一たん台風で倒れると、

自然に囲まれて生活した人ですが、いまは蘆花 ますね。渋谷のことがでましたが、徳富蘆花も 外国人は鬼無里あたりに移ろうなどと考えてい 公園も高層ビルに囲まれてしまって(笑い)。 司会 隅谷 日本はすでに江戸時代から高密度社会 軽井沢はもうだめだ ― ということで

たらいいのでしょうか。

さいなくなってしまう。こういう現状をどう見では先租の遺産を荒らしている。林業の後継者して植林してきた人が昔からいた。それがいま底的に破壊することなく、子孫のために営々と世紀のヨーロッパや近代中国のように自然を徹になっていますが、それにもかかわらず、十六

識しないのではないか。 
田本人は自然を人間にとって対象的なものとっていて、自然の中に入って人生を豊かにしよっていて、自然の中に入って人生を豊かにしよいている。自然に対するはっきりした意識をも起えている。自然に対するはっきりした意識をもましている。自然に対するはっきりに意識をもました。

## 峠の切断で列島に動脈硬化

井出 飛行機で日本の上を飛ぶと、正に山とかったのではないか。

った。今はその動脈硬化が相当なところまです鉄道が通り、毛細血管が動脈硬化になってしま同時にやられ、それが近代の始まりになった。それが鉄道の開通で峠が絶たれていくことが

いかという気がします。 て大手術しないといけない時がきているのでな政治面だけでなく、日本人の心の問題もふくめすんでしまったと憂慮しているんですが ―。

司会 日本文化の問題としてですね。日本の山村というのは豊かな独自の文化をもって、その地域で完成した生活をしてきた。明治以降はさる形で都市へ、都市へと若い人たちが出てゆきましたね。とくに戦後の山村からの人口流出ははげしく、これが山村の疲弊に拍車をかけるととになったと思います。

開谷 江戸時代や明治の初期には、都市と市内市段がで都市と農山村の生活様式の差はそれほどなかった。例えば、村の生活様式の差はそれほどなかった。例えば、村の生活様式の差はそれほどなかった。例えば、村の生活様式の差はそれほどなかった。例えば、村の生活様式の差はそれほどなかった。例えば、村の生活様式の差はそれほどなかった。例えば、村の生活様式の差はそれほどなかった。例えば、村の生活様式の差はそれほどなかった。例えば、村の生活様式の差はそれほどなかった。例えば、村の生活様式の差はそれほどなかった。

司会 それに依拠する政治勢力もでたが、山村を切れた感じがしますね。黒澤村長がいうように「いくら声をあげても届かなかった」というととも、いまいわれたことに関係があるようでとも、いまいわれたことに関係があるようではる。 戦後、農地解放があって農村の生産・すね。 生活は改善されたが、山村は山林の所有制度が生活は改善されたが、山村は山林の所有制度がする。

支局(朝日新聞)に赴任しましたが、一九五〇でな 司会 わたしは新聞記者になって最初に長野くめ 井出 山林党でもできればよかった(笑)。 は過疎もすゝみ取り残された。

年代は山林解放運動が盛んで、佐久地方へ取材

に行ったことを思い出します。

して山地が不利になるのでモノカルチヤになっ 村では、それまでは二十数種の物産を出してい だめになって、袋小路になった。私が調査した 佐久の山村は、 が下るため、満蒙開拓へ行ってしまう。 の恐慌へ入ってしまう。それでマユと炭の値段 をされていますが、それが手つかずのまゝ昭和 て「人減らしと仕事をつくること」という指摘 手がいるから子沢山になった」。この解決法とし になってしまった。しかも「養蚕と炭焼きは人 て、柳田さんが入られた頃は養蚕と炭焼きだけ た。ところが、峠を通る流れが変り、平地に比 有名なエッセイを書いていますが、上州・信州 『太陽』に「峠に関する二、三の考案」という 井出 柳田国男さんが明治四十三年の雑誌 信越線が通ったために峠が全部

農山村の副業政策をやりますが山村は実らない。遠い土地になってしまった。明治の末ごろから、隅谷 鉄道に向ってしか道は開かれないから、

ヨーロッパにはない過疎問題

んかでは、いわゆる山村の過疎問題がない。山節さんの「欧州紀行」を見ますと、フランスな婚姻関係もあって、よそ国ではなかった。内山崎の長 上野村でも信州との交流は多かった。

集中型文化になった。 
集中型文化になった。 
集中型文化になった。 
の人たちは「オレ達はここで生まれて、ここでの人たちは「オレ達はここで生まれて、ここでの人たちは「オレ達はここで生まれて、ここでの人たちは「オレ達はここで生まれて、ここでの人たちは「オレ達はここで生まれて、ここでの人たちは「オレ達はここで生まれて、ここでの人たちは「オレ達はここで生まれて、ここでの人たちは「オレ達はここで生まれて、ここでの人たちは「オレ達はここで生まれて、ここでの人たちは「オレ達はここで生まれて、ここでの人たちは「オレ達はここで生まれて、ここでの人たちは「オレ達はここで生まれて、ここでの人たちは「オレ達はここで生まれて、ここで

「教育森林」を打ち出しましたが……。「教育森林」を打ち出しましたが……。 ということで国びつな人間ができてしまう ― ということで国びつな人間ができてしまう ― ということで国民森林会議は昨年の三月、提言第一号として民森林会議は昨年の三月、提言第一号として「教育森林」を打ち出しましたが……。

隔谷 子供たちが、山菜とりに入るというよいできる状況を作ってほしいという思いです。 「自然を発見し、人間が自然とどんなかかして、自然を発見し、人間が自然とどんなかかして、自然を発見し、人間が自然とどんなかかという考えで、一週間でも二週間でも自然の中を子どもたちがナマの体験で学んでみたらいい、わりで生きてきたのか、生きていけばいいのか、わりで生きてきたのか、生きていけばいいのか、わりで生きてきたのか、生きていけばいいのか、わりで生きてきたのか、山菜とりに入るというような自然というまできる状況を作ってほしいという思いです。

## 自然に語りかける教育を

井出 「教育森林」の提言は賛成です。ボク

ると思います。 育から身につけさせねばいけない段階にきていたら人間が自然と共生できるかの視点を義務教たら人間が自然と共生できるかの視点を義務教いるいじめの問題とも関連しますが、どうやっす必要があると思いますね。いま深刻になっては日本の教育の中の自然科学の教育を点検し直

けで、そこから引き出していく ―。 なりたちの時代には物理で星空のことを教われて、そういうなかで麻痺されているわか。という驚きのようなものを感じたことをいする驚きが無感覚になっている気がするんでいする驚きが無感覚になっている気がするんでいする驚きが無感覚になっている気がするんでいする驚きが無感覚になっている気がするんでいる(笑い)。そういうは関かで麻痺されているとを教われて、そこから引き出していく ―。

教え育てるという、教育』という言葉は嫌いで、潜在している能力を引き出していく観点かで、潜在している能力を引き起す教育のありよう話のようなところから説き起す教育のありようを考えないと臨教審では救えない。虫との対を考えないと臨教審では救えない。虫を考えないと臨教審では救えない。虫を考えないところがら説き出していく観点かで、潜在している能力を引き出していく観点かで、潜在している。

井出 文部省にものすごい圧力をかけて変え時のに生活するというのでなく、「教育森林」であたいは、自然に向って語りかけ、自然からめに生活するというのでなく、「教育森林」でのに生活するというのでなが、森の中で受動

司会 昨年は、国際森林年と同時に国際青年させないと実現しないでしょうね。

年でもあるということで、中青連(中央青少年年でもあるということで、中青連(中央青少年運動をしている若い人たちを集めて合ったい、文部省後援のもとに長野県王滝村に全国がありました。しかし、義務教育の段階から教がありました。しかし、義務教育の段階から独がありました。しかし、義務教育の段階から教がありました。しかし、義務教育の段階から教がありませんね。

すね。しつけがなっていない。をする段階から、そういうものをしてほしいで手出「小学校というより、お母さん方が育児

びつになる。

びつになる。

がからコンピュータの方へ一方的にすゝむと人間はいいなるほど自然との接触が大切になってくる。
はなるほど自然との接触が大切になってくる。
の動きは間違ってはいない。しかし、そうなれ

司会 その意味では「教育森林」が教育課程 司会 その意味では「教育森林」が教育課程 を議の展望についてはどうでしょうか。

## 提言から現実化への方向に

いろな「緑を守る」会ができた。それぞれの関は二つの課題があると思います。一つは、いろは二つのけいのしいことですが ― 。私たちに

として歓迎すべきととです。心事があって組織ができたので、自主的な運動

は一致しています。既存の林業関係団体を含め、は一致しています。既存の林業関係団体を含め、は一致しています。既存の林業関係団体を含め、は一致しています。既存の林業関係団体を含め、は一致しています。既存の林業関係団体を含め、は一致しています。既存の林業関係団体を含め、は一致しています。既存の林業関係団体を含め、は一致しています。既存の林業関係団体を含め、は一致しています。既存の大切でないかと言語した出ましたが、組織化をすすめる段階にも話しに出ましたが、組織化をすすめる段階にも話した出ましたが、組織化をすすめる段階にある。

があります。

があります。

がありますが、提言だけでなく、それをどう現実まりますが、提言だけでなく、それをどう現実まりますが、提言だけでなく、それをどう現実にしていくのか。「山村問題と林業の担い手対化していくのか。「山村問題と林業の担い手対があります。

でてきたボクたちが、山林のもっている価値が株を維持することができない状況です。都市に大の会なのか。全国で山村問題を抱えているのけの会なのか。全国で山村問題ではダメで山から、そこが全部結束することが大切です。だから、そこが全部結束することが大切です。だから、そこが全部結束することが大切です。だから、そこが全部結束することが大切です。だから、そこが全部結束することが大切です。だから、そこが全部は大切ですが、なぜ海なし五県だ様の会なのか。全国で山村問題を抱えているの間、長野で「海のない県の連絡会業」が開かれたものできない大切です。

す役割は大きいと思う。持ちうると思う。その中で国民森林会議の果た分ってきつつある。お互いに語り合える言葉を好ってきつつある。お互いに語り合える言葉をばく大で、お金では計れない ― ということも

れていませんからね。 あと思います。ほとんどその種の情報は提供さい。諸外国の情報なども載せることは意義があ人も見たいというほど、もっと充実させてほし考えるために大変役に立っています。会員外の毎号『国民と森林』は必ず拝見しています。

司会 緑に関する情報が意外なほど都市の人に伝わっていない面がありますね。かって山村は豊かで独自の文化も持っていた。最近、森林の大切さがいわれているが、いまの経済の仕組の大切さがいわれているが、いまの経済の仕組は豊かで独自の文化も持っていた。最近、森林は豊かで独自の文化も持っていた。最近、森林は豊かの大の大のではい面がありますね。かって山村に伝わっていない面がありますね。かって山村に伝わっていない面がありますね。かって山村に伝わっていない面がありますね。

はないでしょうか。

## 真の豊かさは自然の中に

ですね。 一個谷 そうですね。戦争が終った時貧乏で何 をか経済的な豊かさを獲得したいと日本人は四 がなくなった。そこへ働きかけるわれわれの 標がなくなった。そこへ働きかけるわれわれの 標がなくなった。そこへ働きかけるわれわれの でする。もう一度山と森の実態を見 でがあると訴えれる状況になってきていること とがあると訴えれる状況になってきない。 ですね。

て、都市から山村へという傾向がでてきたのであり方に疑問を抱き、文明の行きづまりを感じないですね。精神文化の創造にタッチしているようですね。精神文化の創造にタッチしているようですね。精神文化の創造にタッチしているようですね。精神文化の創造にタッチしているようですね。精神文化の創造にタッチしている方たちが、今までの日本人の生き方、経済のる方たちが、今までの日本人の生き方、経済のる方に疑問を抱き、文明の行きづまりを感じる方たちが、今までの日本人の生き方、経済のる方に疑問を抱き、文明の行きづまりを感じる方に疑問を抱き、文明の行きづまりを感じる方に疑問を抱き、文明の行きづまりを感じる方に対している方に対している方に対している方に対している。

井出 おととしですか、フランスのロブグリエというアンチ・ロマンの作家が来日しましたが、「自分はフランスの片田舎に住んでいる。自分の書くこととパリはつながっている」といっているんですね。二十年ぐらい遅れて日本にもをが、一。ボクたちの世界ではワープロがファクも故郷の長野県に帰りたい欲求があって、ちょっとした畑など作って二重生活をしていますね。ますね。これはかつてなかったことで……。ボクも故郷の長野県に帰りたい欲求があって、ちょっとした畑など作って二重生活をしていますね。シミリで東京へつながっていまして(笑い)長野県にいてもさしつかえない。

だき、ありがとうどざいました。

# 山村をゆるがした日航

- 上野村になにが起きたのか -



事故が降つてきた――。昨年八月十二日、一等故が降つてきた――。昨年八月十二日、大の山村を直撃した『衝撃波』でもありました。日航機事故を通してみた山村を黒澤丈夫た。日航機事故を通してみた山村を黒澤丈夫た。日航機事故を通してみた山村を黒澤丈夫た。日航機事故を通してみた山村を黒澤丈夫がある大野盛雄さん、同村に寓居している内山節さんの三会員に集まつていただき話し合つてもらいました。

いただきましょうか。 — それでは最初に黒澤村長から口火を切って

「うちでないか」の予感が

しているんですよ。「これはうちではないかな、大いました。今考えると的確に落ちた位置を示いか」という気がしていました。隣村になる川上村(長野県)の梓山の主婦が「三国山を越えて群馬の方へ消えたら煙が出た」と記者に話していました。今考えると的確に落ちた位置を示すが、あのニュースの直後から「上野村ではなすが、あのニュースの直後から「上野村ではなすが、あのニュースの直後から「上野村になる川上村(長野県)の存出のではないましていましていましていました。

しながら夜が更けていきました。
「何も起きていません」というわけでイライライ)の方向なんですよ。役場に電話をしても村)の方向なんですよ。ニュースでは。ところがいの方向なんですよ。ニュースでは。ところがく変なことになった」と思っていると、ニュー大変なことになった」と思っていると、ニュー

あ、こうして眠れぬ夜が朝まで続きました。まうです。県警本部長から十一時すぎに電話がようです。県警本部長から十一時すぎに電話がようです。県警本部長から十一時すぎに電話がところが、現場は確定できない。長野県警はところが、現場は確定できない。長野県警は

五時前に役場に行くと、幹部職員も出ていき を電話の前に座るとその机はその社のデスクと電話の前に座るとその机はその社のデスクと電話の前に座るとその机はその社のデスクとで話の前に座るとその机はその社のデスクとででありませる。 三人来始めた報道陣にたちまち役場は"点拠" 三人来始めた報道陣にたちまち役場は"点拠" 三人来始めた報道陣にたちまち役場は"点拠" で笑)。そうした中で十三日が終るのですが、そ の中で感じたことが二つあります。

深いですよ。遺族も小海町に集めたんですから ね。群馬県警の出勤を遅らせたし、われわれに しても、あそこまではっきりいわれなければも う少し探すことに積極的な行動がやれたと思う。 あれだけへりも飛ぶんだから照明弾でも落し でほしかった。「照明弾を落すと山火事の恐れ があった」というのは山を知らない者のいうこ とで、墜落現場でジェット燃料がバラまかれて というのがあった、夏山には山火事の心配はない もめですよ。照明弾が落されれば大体あそこと いうのがわかったと思いますね。

うことになりました。
この時始めて、準備をしなけりゃならないといちが伐ったり、植えたりしたところですから。「管ノ沢の国有林だ」というんですね。自分たろ」といいました。すると愛林組合の連中はろ」と思いましてね、「楢原愛林に聞いてみ野村だ」と思いましている。

一元化していない情報・判断

― ということで中学校や廃校あとなど三ヵ所あれだけの事故ですからまず遺体の収容先を

内山 節(哲学者・年に何回かは上野村大野盛雄(東大名誉教授・大東文化大教授)黒澤大夫(群馬県上野村長)

出席者(発言順·敬称略

いました。

今回の事件の最大の教訓として私が感じたの今回の事件の最大の教訓として私が感じたのは「日本は災害態勢が整っていない」ということでした。県は県、機動隊は機動隊、自衛隊はを一カ所に集中していない。情報が集中していないが、大臣が判断が下せるような態勢になっていない。情報を集めている。情報をあって、との方法が一番いいかが検討されて、というとは、「日本は災害態勢が整っていない」ということでした。県は県、機動隊は機動隊、自衛隊はというです。

かなか『抜けられ』なかった。優先したらしい。だから自衛隊は長野県からな位置が正確だったようですが、自衛隊の情報が最近聞くとあの当時、緯度経度で出していた

を日航機事故でわかりました。しかし、その反ても、実際の時は役に立たない ― ということ・電源・交通がない中でどう情報を一元化していくかですよ。災害訓練の時はうまくいっていらかですよ。災害訓練の時はうますか。通信らいたい。あの事故は大事故ではあったが対策らいたい。あの事故は大事故ではあったが対策らいたい。あの事故は大事故ではあったが対策らいたタテ割り情報管理は国から自衛隊・こうしたタテ割り情報管理は国から自衛隊・

省もいまない。

でしょうか。 のために使える予算を与えて置くべきではない なるというので六千双を買う一幕もありました トロールして ―― と思いましたが、手袋も臭く コントロールもいいが仕事もできないほどコン でマスクも買える権限もないのか。シビリアン がですよ。ちっぽけな村に。師団長は災害救助 れ」と役場にいってきた。あのでっかい自衛隊 この事故の教訓を生かして考えてほしいです。 た災害対策を、訓練の中から汲み取れるように たからといって安心はできない。現実に合致し スジ書きのある゛芝居゛で、それがうまくいっ を早急にたててほしいと思います。災害訓練は 二日目になって自衛隊が「マスクを買ってく 自衛隊を救難に出動させるのなら師団長がそ 今回の反省の上にたってさしあたり地震対策

大野 今度の事故は上野村が起したのではない、飛び込まれた事故です。飛行機が墜ちただい、飛び込まれた事故です。飛行機が墜ちただい、飛び込まれた事故です。飛行機が墜ちただい、飛び込まれた事故です。飛行機が墜ちただし……。

## つもの通り動いた上野村民

という過疎村が、村長がどうこうしろといわなタテ割りでしょう、最後まで。その中で上野村いる世の中です。だから協力態勢もとれない。いう人間の生きていく原則がわからなくなって黒澤 人間は協力し合って生きていく ―― と

のお陰だったと思いますよ。山火事の時にやっ り動いたのは村民が常に心に持っている協力心 くても、消防団長が指示しなくてもいつもの通 ていますから。

平素やっている社会だからできた。このことを 都会の人は知ってほしい。 消防団を出してから、食事を届ける様なことを のは上野村民の協力心の賜だ。山火事の時にも ということが現場で判断されてどんどんやった 校給食のカマでも炊けということになり、握る 防団をふくめてじゃ不足」ということから、学 けの米を炊いて」ということになったが、「消 ということになった。「二階の研修室でありった 人は婦人会動員となり、それでも不足で注文-うことなく、「この人たちの昼食はどうなるか」 ってきて疲れているものですから。すると誰い て二階のフロアーで眠てるんですよ。夜中かか ・ 十三日の朝現場に行って見ると埼玉県警が来

民には「どこが良かった」のかわからない。い つもやっていることだから。 「上野村民は良くやった」といわれるが、 村

> ら。道に迷っても大事にならなかった。 救助隊や報道陣がずい分道に迷ったそうですね。 あったかも知れませんね。外部からかけつけた 黒澤 夏で着るものもなくていい時でしたか あれが冬だったら日も短く二次災害も

## 村人のいうことは消されて

ころがニュースは「北相木村」で変らない。 すると、「ヘリが奥を飛んでいる」というんです。 片でも飛んでいると大変」と思ったのですが、 はびっくりした(笑)。しばらくは「前人未踏の どうも本谷の奥の方に落ちたらしいんです。と 落)の高橋さんの所へ電話を入れたんです。「破 は川上村の人の話を聞いて、浜平(本谷奥の集 原始林」に落ちていたことになっていた。ボク でしょう。県南なら伊那谷ですよ。次の日のニ ュースでは「カラマツの原生林」(笑)。 あれに っけい。でした。まず、「長野県南部の北相木村」 なんで村の人の話を信用しないか ― なんで 内山 東京に居て聞いた事故のニュースは "こ 不思議な国ですね。村の人が「あの山の間



大野盛雄さん

黒澤文夫さん

が入ってきて、電話取材に答えた村人が「上 ら消されているんですね。その頃自衛隊の情報 ますよ」と記者から言われた。 野村に落ちたというあなたの情報は間違ってい 人の「上野村だろう」という言葉はニュースか に落ちな」といえば正しいでしょう。その村の

ね。 うことにも通じますね。これは都市の論理です そこに住んでいる人のいうことを聞かない。 方とか山村とかをどう考えているんだ ―― とい 他所からやって来て何も知らないのに 都会の方でニュースを作っている。 地

ていたといいますからね。 が、梓山の集落の人は皆な「上野村」だといっ 山の常識、 方向に行きお互いの常識が通じなくなっている。 日本人が非自然人と自然人に分かれる 都会の常識。川上村長に会いました

革命は起らない」という結論を出していました るためにあるのですが、防衛官のいう通りに、 いう返事をしたんです。大使館こそ情報を集め 館の防衛官は「調べた結果それはデマです」と をし、私の話の裏をとろうとしたんです。大使 ました。するとこの特派員は日本大使館に電話 すか。撃ち合いが始まったようですよ」と答え すか」というのです。「いよいよ最後ではないで 員が電話をかけてきて「何かニュースはないで すが、一九七九年の二月九日の夜、N紙の特派 た。もう二十年も定点調査を行なってきたんで 「国王を支持するイランの軍隊は一枚岩だから 大野 私はイラン革命の時、 現地におりまし

されないということなんです。
こちらは二十年もかけている。その情報が信用

団は遅れてきた。
がという国家機関が決めた情報だからでしょう。
隊という国家機関が決めた情報だからでしょう。

内山 情報がタテ割なんですね。 大野 こと山村に限らないわけですよ。

い。 大野 そう。情報を総合する仕組になってい

カ所にしなくては……。

いてひどく過疎なんです。
大野 情報は一面では過密なんでよ。それで

内山 「御巣鷹山」という呼び名も地元のいは警鐘を乱打しなければいけない。

で出てこなかった。

### 村の生活を知る人は

聞で、消防団のハッピ姿の救出の光景に接して カ月分を読み通しました。 それがひどく印象的でした。涙を流しながら一 からでした。九月十日に大使館で読んだ朝日新 うのがわかったのは八月末、家内の手紙を見て 画面がさらっと出ました。もっとも上野村とい ビもつきましたがその夜、墜落現場での救出の の村に今年初めて電気がやっと入り、白黒テレ して大惨事だった」と知らせてくれました。こ ニュースを聞いて村人が「日本の飛行機が墜落 く畑にいると、BBCラジオ放送のペルシャ語 ドで聞きました。事故の翌日の十三日の正午近 野村のニュースを、これ又二十年間にわたって 定点調査をしてきたイランの農村へイラーバー たわけですが、奇しくも定点調査をしている上 大野 あの事故のときはちょうどイランにい

私は上野村については、今回イランに出かける前にも津田塾大学の学生を連れていっていまる前にも津田塾大学の学生を連れていっていまと、となりです。テレビ自体が「原始林でひどい所だ」との画面を見ると、どても人の住めないひどいだの画面を見ると、どても人の住めないひどいがあるよかった」とか「村はこれで有名になったからよかった」とか無責任な発言があったよからよかった」とか無責任な発言があったよがあるよいです。テレビ自体が「原始林でひどい所だ」というアングルで写真を撮っていますからね。

をいただきました。
をいただきました。
をいただきました。
をいただきました。
をいただきました。

人は少ないようです。 
し「地域社会の仕組が貢献した」と思っている 
事を放って救助したわけでしょう。だけどしか 
けでなくて、消防団も愛林組合の人も自分の仕 
大野 「上野村の人は親切だった」というだ

ない。 黒澤 住民生活と関係あるという捉え方は少

的な大きなマイナスが今後も続きます。いう雰囲気ではない。上野村にとって逸失利益んですね。上野村へ行って酒のんで歌う ――と上野村は、喪に服するべき天地、という感じな上野村は、喪に服するべき天地、という感じない。上野村はレースを

## 交通が絶えた奥から来るのは

平は一番奥の集落になってしまって、いつも、奥でまずごおっと音がして岩が落ちてきた。浜の奥からやってきてざあっと夕立を降らせる。の奥からやってきてざあっと夕立を降らせる。



うんですね。 て夜月明りを頼りに歩いて朝梓山に着いたとい

ような気がしますね。 通路がなくなっていたことが事件を大きくした 方からくるという "奥" になってしまった。交 に入って道がなくなって、夕立とか地震が奥の 昔交通路だったところが、自動車時代に 昔の人は足が強かった(笑)。

間です。昔はあの道は往来があったんでしょう。 と菅ノ沢には車止めから軌道あとを歩いて一時 こなら自転車でいくのが一番です。ボクが歩く ていたサイクリングの人たちなんですね。あそ

現場に一番先に行ったのは高橋さん家に泊っ

変化は本谷の奥からくるようになった。

亡くなった登山家の原全教さんの、あの辺のこ

昔は川上村と盛んに

行き来しているんですね。 とを書いたものを読むと、

梓山(川上村)とは密接な関係があっ

内山

ら、いざという時に行く道もない所を残してお は相当の所まで作っておくべきでないか。 くことは困る ― といったんですが、道ぐらい 黒澤 日本もこんな経済大国になったのだか

道もなくなっている。 内山 ええ。昔の尾根を通って梓山へ抜けた あそこは作業道もなかったですね。

グやる人は道を知っているんです。 を抱えて下りてくるんです。だからサイクリン すが、梓山から三国峠、本谷をほとんど自転車 ッカなんですね。あの連中は昔の道を辿るので 内山 上野村は最近は山岳サイクリングのメ

村落共同体が壊れると消防団は機能が発揮でき 防団が成立する社会的基盤は村落共同体です。 小屋で一緒に酒を飲んだりもしていますが、消 激したわけですが。私は年末特別警戒の時消防 黒澤 しかし、よく自転車抱えてくるわ。 ハッピ姿の上野村消防団にイランで感

罪の方は「個人の自由を拘束する」「地主・小作 そもそも村落共同体を調べるのが私の仕事で 村落共同体の功罪ということがいわれて、

> 関係とからみ不愉快な社会関係を作り出す」と かに当たる」という面があった。 いわれてきました。功の方は「一致団結して何

だったと思います。 悪い村落共同体意識の否定という考えが支配的 で貫いて生産性を上げる」「農村も都市の論理で きました。そのことは「農業も工業と同じ論理 近代化」ということにもつながってきました。 研究者の間では「村落共同体は非近代的だか 市民社会をつくるべきだ」といわれて

やはり村落共同体について考え直すべきところ 新しい地域社会づくりをすることについてシラ ては何もない。都市の住民が都市に住んでいて とは」とか「都市の地域社会のあり方」につい 定して一方で都市ができたのにその都市に新し たら大変だと思います。しかし村落共同体を否 そのものに馴染めないし、集落に一生住むとし に来ているのではないか。私自身、村落共同体 して今回の事故で一定の役割を果たしました。 ケているんです。 い共同体が成立していませんね。「都市の自治 しかし、村落共同体はなくならなかった。そ

「人間は自然の一 部」の自覚

つけた村落共同体の悪い面をなくして、隣人と かつて、地主制度と結んだり、封建性でしばり 同体をつくり社会を構成する。これが大原則だ。 いく」ということにあると思う。それが村落共 は生きられない。助けたり助けられして生きて 人類の生き方の基本は「人間は一人で

ない ―― という状況があちこちにでているのが いかねばならない。人間の集団はあるが社会は いまの状況だ。 結びつきを強めていくような社会をつくって

花開いた社会になったが、非常に凶悪な事件が 足感を持っているのか、金もあり、物質文明も 毎日起きている。 移行してきたが、その反面生き方の基本を忘れ 活するのはこの道しかない ―― と商工業社会に てしまっている。それでは都会へ行った人が満 池田内閣の時代から狭い国土で一億の民が生

中の生き物じゃない。そんなことを考えるべき とだ。コンクリートとアスファルトとガラスの らない。「助け合って生きていく社会をつくる. えになりすぎている。 でないか、日本人はいま余りにも殺伐とした考 と同時に「人間は自然の一部である」というこ くにはどうするか ―― ということを考えねばな これをもう少し人間味のある社会に変えてい

んです。そういう人間の余裕が都市にはなくな を保ちながら生きていく人たちの余裕だと思う 生きていけない。でもそれは集団性とか共同性 すがね。村ではいやな奴とでも口をきかないと ら生きていけないことがはっきりしてくるんで 大野 人間は集団としてしか自然と交流しなが 生産力論にひっぱられていますね。 「人間が自然の一部」ということにな

したというのは一面は本当だが、ボクは一面で 上野村には共同体があって、事故の時に機能

> て共同体を認めないことへの反発ですね。 たという気持があることですね。日本社会とし てくれれば救助だってもっと迅速にうまくいっ こそこそと行く。本来、自分たちを中心にやっ 大通りをトラックで行くが、われわれは脇道を 脇役におかれた不満ですね。自衛隊や機動隊は い」というんですね。「つまらないから」。常に って村へ電話を入れると村の人は「来なくてい ち。あのあと、畑があるから「行きたい」と思 がある。共同体はいつも脇役で、縁の下の力持 体よりも自衛隊が珍重されるという日本の体質 は疑っている。というのはまず、上野村の共同

解体の一歩手前のように思います。 体の復活になっていない。山村の村落共同体も 体はことが終ると元にバラされてしまう。共同 めないから脇役になり、瞬間的に回復した共同 んだ ―― というふうにならない。社会がそう認 やはり上野村に共同体がなければいけなかった ら瞬間共同体は回復する。しかし、そのことが より大分冷い関係になっている。事故が起きた し、日常生活ではどうかというと、上野村も昔 お祭りのような時には共同体が機能する。 もう一つは、今度のような事故とか山火事や しか

地域生かす "自治"の心こそ

教育の中でそういう方向が強まっている。 得をすればいい」という方向に流れています。 た頃から見ても共同体意識が薄れて「オレだけ 役場でも「他人のことに思いやりのある人間 その通りですね。終戦で家に帰ってき

> になり合おう」といってきた。道路つけでも「あ てくるが、そんなことをなくしたい。「悪口を わない運動を」と考えているほどだ。 れが得するなら用地は出さぬ」ということがで

ているくせに マスクを買ってくれなんて(笑)。 自衛隊にしても県警にしても自治体におんぶし 統一・指揮の上で互いに尊重し会うことは当然 私はショックを受けましたね。消防団はボラン としても「頭右」はどうもいただけないですよ。 テアであって県警の下部組織ではない。情報の が団員に向かって「頭右」の号令をかけました。 本部長が壇上に上ると、それに対して消防団長 県警本部長が消防団員に表彰状を手渡しました。 黒澤 十月十日、体育の日の村の運動会で、 あとで精算はしましたが

カラクリも知りました。 まさに、都市の論理ですね。集落の人はそんな ならないから、個人の『功労者』を仕立てる。 ていて、いざという時におんぶする。あの事件 が共同体見直しの転機になればいいのですが―。 ジャーナリズムも全体の活動ではニュースに 大野 平常は村落共同体を無視したり否定し

た。 います。 重な材料として生かしていただけるものと思 重ねている時でもありますし、この問題も貴 業の担い手」について提言をまとめる作業を 生が主査のプロジェクトでは「山村問題と林 ったことは確かです。国民森林会議の大野先 今回の事件が、山村を考える一つの素材だ 本日は長時間ありがとうございまし

(文責編集部)

# **甲国の林政・社会見聞**

## 参考林で(筆者は左から2人目)

### 展開する新林政

思いきって行く決心をする。

のではないか。社会経済の発展を左右しかねないともみてよい階にある。その成功いかんは、長期的にみると階にある。その成功いかんは、長期的にみると中国林政は、新森林法施行(一九八五年一月)

### まえがき

が、きっかけはその半年前。○呂死亡)が日本中をかけめぐるころ、私の乗る中国民航機は東シナ海上にあった。それからる中国民航機は東シナ海上にあった。それからるの国民航機墜落のニュース(群馬県上野村、五二田和六○年八月一二日夜 ― 。

する基本方向を断片的にしめそう。

は失敗したといえる。だから、こんかいの立法

諸般の事情はあったにせよ、これまでの林政

措置は慎重にすすめられてきている。とらんと

本確保したらしい。

「月中旬、中国林学会から突然、手紙が出版を確保したらしい。

「月中旬、中国林学会から突然、手紙が出版を確保したらしい。

現在の経済政策は、一九七八年末(党第一期三中全会)にはじまる。それを追うかのよう期三中全会)にはじまる。それを追うかのよう期三中全会)にはじまる。それを追うかのよう期三中全会)にはじまる。それを追うかのようが森林経営管理」であるのは、筆者への講義依「森林経営管理」であるのは、筆者への講義依「森林経営管理」であるのは、筆者への講義依「森林経営管理」であるのは、筆者への講義依「森林経営管理」であるのは、筆者への講義依「森林経営管理」であるのは、第一人民共和国森林と同様を表している。

の一選択肢なのか。

「選択肢なのか。

の一選択肢なのか。

の一選択肢なのか。

の一選択肢なのか。

の一選択肢なのか。

の一選択肢なのか。

の一選択肢なのか。

ルの地点にあった。幅七メートルの林道の近く私が実見した自留山は、駅から六キロメート

野敏雄

萩

に位置し、面積一○八へクタール。引渡時に天 に位置し、面積一○八へクタール。引渡時に天 が、日本とちがって間伐材が高値で売れるから が、日本とちがって間伐材が高値で売れるから が、日本とちがって間伐材が高値で売れるから が、日本とちがって間伐材が高値で売れるから であろう。テレビアンテナの支柱はすべてカラ であろう。テレビアンテナの支柱はすべてカラ であろう。テレビアンテナの支柱はすべてカラ であるう。テレビアンテナの支柱はすべてカラ であるう。テレビアンテナの支柱はすべてカラ であるう。テレビアンテナの支柱はすべてカラ であるう。テレビアンテナの支柱はすべてカラ であるう。テレビアンテナの支柱はすべてカラ

てよい。 林学高等教育の充実も、新林政の現われとみ

真新しい大学名がかけられていた。 東北林学院を所管している。八五年八月六日に業大学と改称=昇格させた。東北林業大学(ハギのうち三大林学院(東北・北京・南京)を林が六林学院を所管している。八五年八月六日に、が 中国では林業部(日本の省)

中国の林学教育体系は、驚くほど大規模、か中国の林学教育体系は、驚くほど大規模、か中国の林学教育体系は、驚くほど大規模、か中国の林学教育体系は、驚くほど大規模、か中国の林学教育体系は、驚くほど大規模、か中国の林学教育体系は、驚くほど大規模、か中国の林学教育体系は、驚くほど大規模、か中国の林学教育体系は、驚くほど大規模、か中国の林学教育体系は、驚くほど大規模、か中国の林学教育体系は、驚くほど大規模、か中国の林学教育体系は、驚くほど大規模、か

とみた。 とみた。

### 林務官と林業地域

中国の林務官は、わが国の林野庁のばあいの、を残念ながら聞きもらした。

した国家体制の末端機構なのだ。
に接したからである。しかもそれが、レッキとを一言でいえば、林業局による地域支配の枠組誰からも知らされていないものであった。それた。そこで見聞したもののすべてが、これまで 林業局現場の姿は、私をしてまさに一驚させ

ここにある。
意江省には四○の林業局があるが、その一つがで五時間北上した朗郷という町。人口七万。黒訪れたのは、省都・ハルビンから快車(急行)

それは、日本のように国有林だけの仕事をす

かと想像した。 おそらく鉄道以外はすべてではないがと想像した。 おそらく鉄道以外はすべてではないがのこと。おそらく鉄道以外はすべてではないがと想像した。 なれどころか、広大な管を現業官庁ではない。それどころか、広大な管を現業官庁ではない。それどころか、広大な管を現業官庁ではない。それどころか、広大な管を関係した。

日本の事情とあまりにも開きがあるので聞きしぎそうに語った。「黒竜江省の国家統治は、ハいろいろのものがくっつき、地域社会ができあがるのです。だから、とうぜんです」。つまり、がるのです。だから、とうぜんです」。つまり、がるのです。だから、とうぜんです」。つまり、がるのです。だから、とうぜんです」。つまり、がるのです。だから、とうぜんです」。つまり、がるのです。だから、とうぜんです」。つきでは、次のか。ともあれ、黒竜江省の地域開発はませのか。ともあれ、黒竜江省の地域開発はませいるいるとうだ。

明郷林業局の今年の丸太生産量は四五万立方はまったく無縁であった。 (はまったく無縁であった。 明郷林業局の今年の丸太生産量は四五万立方はまったく無縁であった。 のアルーセントがもらえるという。後継者問題と はまったく無縁であった。



(筆者 て

### 受講者構成からみると

の参加中止者がでたというが、総数は一〇三名。 性と比例していると思われるので、一覧しよう。 いた。日本とちがうな、とあらためて思う。 たときもそうであったが、女性が数名出席して 二名、内蒙古自治区二二名、 受講者の省別構成は、 開講直前の大水害で、黒竜江省内で一○数名 林業部資源司四名、 七名が女性。北京の林業部で一日話をし 黒竜江省三五名、吉林省 森林分布、 陝西省二名、甘 林業の重要

> 学関係学科卒とのこと。年齢は三○代から五○ 代と多彩。管理者も多かった。 粛省一名、新疆自治区三名、 広東省(梅南島)一名。すべて大学林 四川省六名、 雲南

すこしずつだが、確実に変わりつつあるようだ。 械研究所講堂)は、土曜日午後にはダンスホー ルに早変りし、職員が踊るという。中国社会も、 か。大きな課題のひとつではある。 からの日本がどのようにこたえられるであろう がっていたことも印象に残る。それらに、これ たものを感じた。各種の林業文献を非常に欲し 講義に使っていた建物(林業部直轄の林業機 日本の大学での講師経験とはかなりちがっ

## 林業開拓民」と残留孤児

孤児の最大の発生源であるからだ。その孤児が 記しておく必要がある。 常識だが、 る人はきわめて少ない。だが、事実としては銘 農業開拓移民と大きな関連があることはもはや 黒竜江省の名を知る人は、いまは多い。残留 「林業開拓移民」のあったことを知

源の最大の宝庫であり、関東軍にとって最重要 地である。行先のほとんどは黒竜江省。木材資 高知・熊本営林局管内から。一八年度までに一 九九八名の計画で、 青森営林局管内から送られる。第二次は東京・ 推進された。第一次が昭和一一年九月に秋田・ それは、農林省の政策として、農業と同様に もちろん農業開拓移民よりもさらに奥 主婦達は農業に従事した。

真剣に耳を傾けてくれ、また熱心な質問が多 中林庫子作『マルーシャ』を一読すればよい。 なかにいるのではないか。K林業公司の伐木現 場を舞台、 地域であったからだ。 それらの林業移民の子供もまた、残留孤児の 白系ロシア人の少女を主人公とする、

ハルビンの街かど

少なくとも類推はできる。

だ。建築のたたずまいもよい。なんとなく、 とんどヤナギだが、ここはカエデ。通りは石畳 系ロシア人の姿はいまはない。 シア文学の世界にひきこまれる感じ。だが、白 ーリン通)に残っている。ハルビンの並木はほ 人の街。その面影は、とりわけ中央大街(スタ 五〇万のうち一五万をしめていた旧白系ロシア 戦前派の日本人にとってハルビンは、

戦前の高等教育機関は、わずか哈爾浜工業大

学と哈爾浜学院の二校であったがいまは多い。 た上品な中国人紳士から、 機関もある。それらはこれからの中国にとり、 学・医科大学・林業大学等々……。各種の研究 どこまでも青い。ツバメやトンボの姿もあった。 アとマリーゴールドが咲きみだれていた。空は けられた。六○代にみえ、家族づれであった。 ゃったのですか?」と、流暢な日本語で話しか 大きな力になるとみた。 工業大学・科学技術大学・師範大学・黒竜江大 松花江岸でカメラシャッターを押してもらっ (招待所と呼称)のまわりには、サルビ 「日本からいらっし

### 中 社 断 想

と表現する 解放政策下の中国を、 ある人は「混沌の海」

聞かれた。意味はこうである。「文山」、つま 庁の「文山会海」を改めるべきだとする意見が きであろう。 うな事態克服のやむをえない一手段と考えるべ んでいるわけだが、それもたとえば、つぎのよ 日本と同様に中国でも書類と会議の多いのに悩 議が海のようにあふれているという表現らしい り書類が山のように多く、「会海」、つまり会 解するが、ともあれその一現象であろうか、官 それ自体を私は過渡的な巨大エネルギーと理

り、大きなネックとなっているようだ。 ギーの不足。それは現下の中国経済の発展にと まず輸送力 ― 訪中してすぐ気づいたのは、輸送力とエネル

森林地域の駅前貯木場には丸太が溢れている。

若い村長さん

う。経済発展に必需品であるからだ。 えつづけ、今年は一、〇〇〇万立方メートル(国 内生産量は五、〇〇〇万立方メートル)だとい だ。そのためもあるだろうが、木材輸入量は増 だが運べない。貨車不足でまわってこないから

の条件が必要だという。 券入手には、政府の局長、大学助教授以上など んだ。たとえば、軟座車(グリーン車)の寝台 ためのマイクを使った呼びこみ風景がみられる。 般人も有料で運んでいる。発着場所では、その 各職場は通勤用のバスをもっており、しかも一 館・デパートなどはパンクするという。だから いる。もし日曜日だけにしたなら、バス・映画 各職場の休日はズラして、各曜日に均等化して 汽車・飛行機の切符を手に入れるのはたいへ 公共交通機関の不足もたいへんだ。そのため

い状態であった。 ンベアーが止まったため、作業員が何もできな 開店休業だし、私の見学した貯木場もベルトコ 停電はよくある。そのたびに理髪店・美容院も エネルギー不足もかなりひどい。予告なしの

であった。 農村事情は、 私にはとりわけ興味ぶかいもの

主食を作っているのだ。瞬間的に『チューネン 圏、を思いだした。農村が水平的分化をしてい 食は配給をうけている。 大都市周辺は「菜民」が野菜ばかり作って主 その外周で「農民」が

的に有利なホテルに変貌しつつある。都心のホ また、大都市周辺の旧人民公社は、いま経済

> もちろん持っているし、資金・労働力も豊富だ テル不足がそれを可能としているのだ。土地は し、とうぜんのなりゆきをみてよい。

の姿もみうけられた。 年三月開業、収容力四〇〇名。中庭には立派な ダンスホールがあった。香港からの団体、白人 いえて妙』である。私が泊ったのは、一九八四 正直なところ、人民公社解体後の姿を、する 通訳は「農民ホテル」と呼んでいたが、『云

あった。 し格は落ちるが、ホテルとして見たのは驚きで

### さい

り)、四化 (………)、老舎作「四世同堂」など。 そして日本商品のコマーシャル。 曜日午後には山口百恵・岸恵子などの登場する 帯は毎晩八時半からのゴールデンタイム。毎日 下のドラマである連続物の『四世同堂』。時間 たとえば四旁(住宅・村落・道路・河川、の周 日本映画。これは日本語学習とからませていた。 テレビでとくに印象に残ったのは、抗日戦争 中国人は『四』という数字が好きであろうか。

られたのであろう。 先生を尊敬し、大切にすることが不可欠と考え じかの九月一○日。中国のこんごの発展にとり、 日としてもうけたこと。制定日は、私が帰国ま したが、ハッとさせられたのは〝教師節〟を祝 三二日間もいたので、いろいろのことを見聞

そこに、 いまの中国の意気ごみの一端をみた。 (社大日本山林会常務理事)

### 提言(案)

森林の中に明日がある 地域の森林会議を明日の山村活性化のキーワードとして

う北海道へと連なる日本列島には国土の七割 がら形成されてきた。 日本の文化は木の文化と密接な関係を保ちな をしめる多種多様な森林地帯が生まれ、古来 れてきた。亜熱帯性気候の沖縄から流氷の漂 日本は世界に例をみない豊かな自然に包ま

村であった。 ながら人間たちが暮らしてきた村、それが山 の森林に働きかけ、 とどまらない豊富な価値が眠り、 まれている。 し動物たちの暮らす森林には、木材の生産に 森林は生きている資源である。木々が成長 そしてこの生きている資源として そこに仕事をつくりだし 日々はぐく

ていくことでもある。 きる人間の暮らしが、 でもあり、 それは日本列島の背骨が崩れ去っていくこと た。この事態がこれからも進んでいくなら、 森林の荒廃も各地でみられるようになってき 的にあらわしているが、それにつれて深刻な 過疎化という現象が何よりもそのことを象徴 だが、現在日本の山村は危機に頻している。 生きている資源を活用しながら生 この社会から消え去っ

いうまでもなく戦後の日本の都市の経済や

み出すに至っている。 先の社会は、 してきた。だがその結果生まれた経済効率優 ため都市の経済は、この化石としての資源を 文化は、石油や石炭、鉱石など ― 化石とし いかに効率よく加工するかを基本にして発達 ての資源に依存しながら発達してきた。 今日では新しい様々な矛盾を生 その

化してきている。 村の衰退に歯止めをかけることができなかっ そればかりか山村の崩壊はなお一層深刻 方これまでの山村に対する諸政策は、 山

合的、 村体質と、 森林の価値を、 が森林とともに生きる気力を喪失してしまっ 村の危機の深まりのなかで、 いう状況をつくりだした。 たことである。それは現在の行政依存型の山 してこなかったことである。 在している。 現在の山村の危機の底には二つの要素が存 有機的な活用を妨げてきた。第二は山 森林から村人が遠ざかっていくと ひとつは豊富な資源が眠り育つ 戦後の日本社会が正当に評価 山村住民の多く それが森林の総

る資源としての森林と人間の暮らしが共生で いま山村の再建に必要なことは、 生きてい

> 社会をつくりだしていくことである。 し、手を結び合えるような重層的、多元的な れをとおして日本のなかに都市と山村が共存 きるような新しい山村社会の創造であり、そ

村住民、 と同時に都市市民は山村を単に自然の残って 概を回復するところからしかはじまらない。 だしていく上で必要である。 の切り換えが、これから新しい山村をつくり から山村住民の自主性への支援をという、 仕事や暮らしとの連帯を、 いる場所としてみるだけでなく、 仕事と山村をつくっていこうとする意欲と気 ての森林を活用しながら、 それは山村住民自身が生きている資源とし 都市市民、 行政すべての面での発想 行政は山村の管理 自らの手で新しい 山村住民の Ш

唱する。 する、地域の「森林会議」 かかわるすべての活動を自主的に計画 山村住民を中心に、それぞれの地域で森林に 山村をつくりだすシステムの第一歩として、 の視点にたって、山村住民が自主的に新し 私たちは以上のように、 森林と山村活性化 を設けることを提 調整

その骨格は次のようなものである。

もとづいて自主的に話し合っていく場とす 計画の情報を持ち寄り、地域の森林全体が を取り結んでいる。したがって「森林会議 有機的に機能するように、地域の連帯に は国有林、不在村者を含む各種の森林所有 者が個別におこなっている森林活動とその 山村はその地域全体の森林と密接な関係

形態と機能を持つものとする。 を生みだせるような、 のおのが相互に信頼を高めながら協力関係 会議」は行政機関や議決機関ではなく、お が「森林会議」である。 ている人々、 森林の各事業主と林業労働にたずさわっ 山村住民の知恵の結び合う場 地域の実情にあった したがって「森林

ながら、 地域の森林全体の有機的な活用をはかり 山村地域の活性化を促進する中心

> ばならない。 支え、参加する「森林会議」とならなけれ 域の人々や参加団体に公開し、 ていく。とともに会議の内容はすべての地 信頼し合い、協調し合い、地域的な連帯を 団体をはじめ各種森林所有者も参加して、 を中心にしたがらも、森林組合、 域住民、森林の経営や労働で生活する人々 としている。 的な役割を果すことを「森林会議」は目的 つくっていけるような構成員の組織を考え したがって「森林会議」 山村住民が 農業関係 は地

供給や保養、観光までを、すなわち地域の 能を守りかつ活用する方法、 こに棲む生物や水の保全、 通に関することだけでなく、森林およびそ したがって「森林会議」は木材の生産、流 森林のなかには多くの価値が眠っている。 渓谷の景観と機 農林生産物の

> を自主的につくりだしていけるように心掛 広く話し合い、 自然に対する人間のかかわりについて、 そこから多様な山村の仕事

(五) が連合して、さらに広い地域の「森林会議」 位でつくることも考えられる。またそれら まず想定されるものの、実情によって集落 へと発展させることも可能である。 た周辺山域や流域を一体にした、数町村単 ごとの会議から積み重ねてゆくことも、ま 「森林会議」は町村ごとに設けることが

意見をふまえ総会で提言を決定します。また 御意見は会報か別刷で全会員に配布し、その 員をふくむ全会員の御意見をお寄せ下さい。 「地域協議」の体験や実例もお寄せ下さい。 お願い この提言についてプロジェクト委

## 日村の明日をさぐる

「山村問題と林業の担い手」の提言をまとめて

草案の起草に当たった内山節・松澤譲両委員に話し合ってもらいました。 ジェクト案がまとまり、会員の意を聞き総会の議をへて公表されることになりました。そ 国民森林会議の「山村問題と林業の担い手対策」の提言については、 この提言案をまとめた背景などについてプロジェクトチームの大野盛雄部会長と、 別掲のようにプロ

> 松澤 大野 出 席 盛雄 譲 者 (敬称略発言順) 大東文化 (教育設備助成会事務局長) 大名 大

教 教 授 授

内山

節

哲

者

総会でひとまず中間報告を出すことにこぎつけ ということで作業をすすめてきました。昨年の い意味での山村問題についての提言をしよう」 私たちのプロジェクトチームは、

題にかかわらなくてはなりません。 国民森林会議がとりあつかおうとしている全課 をうけたまわりました。「山村問題」といえば、 その際に皆さんからたくさんのご意見、ご注文

案を作成することは、きわめてむずかしいこと を結成しようではないかという結論に達しまし それに関する皆さんのご要望をも含めて提言 しかし、今日やっと「地域の森林会議」

たいのですが。 た内山さん、松澤さんから何かお話をいただき そこで、この最終のまとめに努力して下さっ

### 多目的な | 森林会議

読み承知していましたが ― 最終段階でした。途中経過は『国民と森林』で 松澤 私はこのチームの議論に参加したのは

問題」というと地域社会として人以外の要素も ば労働者もいる。「人の問題」になる。「山村 クトですが、「担い手」といえば経営者もいれ 「山村問題と林業の担い手」というプロジェ 広い問題をどうビビットな提言にするか

> 提言にすることができるか ― を考えたわけで 各方面でいわれていることをもう一歩すすめた

いる人との間に差があることです。 同じ地域でも用材林業に力を入れている村とそ うでない村との差異もある。それをしぼってま われている「緑・森林問題」と山村の中に住んで とめた提言というのが難かしかった。 もう一つ山村を廻って感じるのは、 「山村問題」も地域によってあり方が違うし、 都会でい

生まれたと思います。 らも、こっちからも人が来て情報交換する場が くはなりません。そこを打破るには、あっちか ことには違いありません。しかし、だからとい の違いはあっても、そこでずっと暮らしている 必要だと考え「地域の森林会議」という発想が って、これまでの閉鎖的な慣習のままでは、よ 自分たちの森林だけのところでも ―― それぞれ ています。たとえ国有林に占められた村でも、 都会の人は、遠くにある森林にロマンを感じ 山村の人は森林の中で生活し、生産をし

地域によってはいろんな協議会や委員会があ

っています。 限のあるものになっていくのでないか ― と思 ます。生活から生産にわたって何でも情報交換 りますが、目的は流通とか開発にしぼられてい するという゛サロン゛的な集りが出発点にあっ て、そこで論議している中で、次第にもっと権

### 自ら仕事を見つける姿勢

究が大変面白かった。 究・議論を重ねてきた。 い)。とにかくこのチームではまとまりのない研 内山 のせられて草案を書かされたので(笑 そのまとまりのない研

とは、 林業で片付くこともあるが、それではすまない そういうものをすべてフォローできなかったこ され続けてきた理由だと思います。この草案が こともある。その辺がまとまりのない議論が出 応えるには村全体を何とかしなければならない 「山村問題と林業の担い手」というテーマに ある意味では残念だった。

りがちだった。村の中から仕事をつくることが からお金の落ちる仕事をもらってくることにな 山村では、"村の活性化"というと「工場誘致」 のためのシステムづくりを考えました。ボクが ら「自分たちで作るもの」ということへの転換 の仕事を「どこからか頂くもの」という考えか できれば、自然と人間の交流もできるし、経済 であり「土木事業を増す」というようなどこか いままでつき合ってきた閉鎖的で活性を失った ボク自身の山村への考え方からすれば、





松澤譲さん



内山節さん

的な基盤もできる。

いけば ―― という気持でした。 転換していく核に「地域の森林会議」がなって

松澤 内山さんが「全部拾い切れなかった」をうですね。

大方向が提言に生かし切れなかったという反省があります。

村の活性化の土台になる ― ということも書きがあります。

村の活性化の土台になる ― ということも書きがあります。

## 提言をふまえた実験も必要

大野 国民森林会議が「森林」といっているうちのは象徴的な意味で、必ずしも狭い意味での林のは象徴的な意味で、必ずしも狭い意味での林が、広く経済、社会、文化にわたる多面的なもが、広く経済、社会、文化にわたる多面的なもが、広く経済、社会、文化にわたる多面的なもが、広く経済、社会、文化にわたる多面的なもが、広く経済、社会、文化にわたる多面的なもが、広く経済、社会、文化にわたるのではなく、

ととです。 とも提言をまとめる議論をしているうちに私の考えもだんだん変ってきました。私はこれまで三年にわたってきました。それはいわばが、通い続けるうちに次第に肩入れをしなくてが、通い続けるうちに次第に肩入れをしないわばない。 はじめる議論をしているうちに私の考えもだんだん変ってきました。私はこれまで三年にわたって上野村の定点調査を担当に私の考えもだんだん変ってきました。私はこれまで三年にある。

実験だと思いますが、そうした文化の交流が山のことを通じて山村の人も都市の人と交流する野塾』も、都市の人が山村にいって勉強し、そ

大野先生が上野村で始められた通称。大

までは はないかということです。これまで私たちの手 はないかということです。これまで私たちのチ はないかということです。これまで私たちのチ はないかということです。これまで私たちのチ はないかということです。これまで私たちのチ はないかということです。これまで私たちのチ はないかということです。これまで私たちのチ はないかということです。これまで私たちのチ はないかということです。これまで私たちと を提言案に役立てましたが、これではまだ不充 がです。具体的に「地域の森林会議」を成立さ せるという実験が必要でしょう。そしてその結果を せるという実験が必要でしょう。そしてその結果を せるという実験が必要でしょう。そしてその結果を せるという実験が必要でしょう。そしてその結果を せるという実験が必要でしょう。そしてその結果を せるという実験が必要でしょう。そしてその結果を せるという実験が必要でしょう。そしてその結果を はないかなければと思いま

提言をまとめる過程で気がついたのですが、このプロジェクトチームがそのまま「森林会議」たったといってよいかもしれません(笑い)。

経歴も専門も立場も違う人々が話し合う場が、町にも村にも必要です。川上と川下、隣りあった山の地域、国有林と民有林というようにお互いが一カ所に集まって話し合えることが大切ですが、

## 現代社会の生き方、山村に発見

うことにポイントがあります。 は化石としての資源をいかに加工するか」とい時もそう感じたんですけど、「今の都市の経済時もそう感じたんですけど、「今の都市の経済のという。

しかし、都市の人間は化石でなく、生きている大間の場になる。

思います。 思います。 思います。 思います。 思います。 思います。 思います。 思います。 はいかと産業としての用材林業は特定の地域であって、大部分の村では森林の中で とったり、 大部分の村では森林の中で とったり、 とったり とった

現代社会の問題点を見直して生き方を考える現代社会の問題点を見直して生き方を考える。とこれは、山村に入っただけではそうならない。考ろが、山村に入っただけではそうならない。考ろが、山村に入っただけではそうならない。考別が山村じゃないか ― という気がする。とこれます(笑い)。

日本人全体が山村に入って、そこから日本人日本人全体が山村に入って、そこから日本人日本人全体が山村に入って、そこから日本人日本人全体が山村に入って、そこから日本人日本人全体が山村に入って、そこから日本人日本人全体が山村に入って、そこから日本人日本人全体が山村に入って、そこから日本人日本人全体が山村に入って、そこから日本人日本人全体が山村に入って、そこから日本人日本人全体が山村に入って、そこから日本人日本人全体が山村に入って、そこから日本人

松澤 小水力発電とか個々のアイデアを並べ

本会議がやりながら —。 本会議がやりながら —。

まった。 まっていて、独自性の強いところでは村で何か ― ていて、独自性の強いところでは村で何か ― というのではなく、まず集落で始めようという というのではなく、まず集落で始めようという ことになる。竜神でも宇江さんから「流域単位 ことも必要」という地域の設定もありましたが、 まる。 まるのつながりも大切ですね。

が大切ですね。

が大切で、そこが実際も難しいことです。いろんな立場の人がョコに並んで話し合うことかではうまくいかない。そういうものを離れて、が中心でつくるとか、議会が中心で運営すると機構の中の問題でないということです。自治体機構の中の問題でないということです。自治体

## 人の動きをもっと自由に

人たちを仲間に入れたら ― ということも問題にみていろいろの方がいるでしょう。そういう山村に関心のある人、感覚的、理論的、技術的大野 内山さんが前にいわれた、都市にいて

ける ― という考えもありますね。んなら「火だね」をよそから持ち込んで火をついる。気力を失っているのではこまります。なになりました。山村の人たち自体があきらめて

内山 大学を卒業して就職したが、山村で働きたい ― と思ったが伝手がない。そこで職安という人の話を聞いたことがあるのですが。山という人の話を聞いたことがあるのですが。山という人の話を聞いたてとがあるのですが。山とのう人の動きを自由にしなければいけない。

「都会の人間が山村に入っても脱落するだけ」「都会の人間が山村に入っても脱落するだけ」というけど、終身雇用制という日本で、学校をというけど、終身雇用制という日本で、学校をの一しかいない。四分の三の人は他の企業に変の一しかいない。四分の三の人は他の企業に変の一しかいない。とかればひんぱんに動く。だから山村に一度入ってまた移っていってもいいわけで、「一度山村に入ったら死ぬまでいなさい」ということもない。しかし、そのことが持の人間が山村に入っても脱落するだけ」「都会の人間が山村に入っても脱落するだけ」「都会の人間が山村に入っても脱落するだけ」

か ― という気がします。 \*変っている人 \* が相当無理をして村に入る。 \*変っている中に、普通の人が村に移っていくき合っている中に、普通の人が村に移っていくいる中に、普通の人が村に移っていくいるか ― という気がします。 しか村に入れない。

ったが面白かった。

まり自身、森林、林業について素人ということもあって、この研究会はずい分面白かったし勉をあって、この研究会はずい分面白かったし勉をあって、この研究会はずい分面白かったし勉をあって、この研究会はずい分面白かったし勉をあって、この研究会はずい分面白かったし勉をあって、この研究会はずい分面白かったし勉をあって、表情では生かし切れなかながありました。なぜ面白かったがもいらと一様になりました。なぜ面白かったが高白かった。

要はないが、この間の歴史のなかでは山村の生 持っているだけにすぎない。山村の人が都市の でいる人が「遅れた地帯にいる」という気持を ら、都市をどう変えて行ったらいいか鑑にして 直していく、そのことを都市の人間が学びなが かも、それでちゃんと生活のできる形でつくり ました。いまは、山村ならではの生き方を、し き方を都市化することがずっとすすめられてき 市と山村の区別がなくなっていて、山村に住ん 働いていて、働く意欲、生活形態のほとんど都 ですが、村人が森林株式会社のようなところで っかりしている人が多い。たしかに囲りは森林 の生き方も都市と変らない」という気がしてが いく逆転した動きを探す時代にきている。 人の思い入れに百%応えるものを持っている必 それから、無理をして山村に入っても「山村

いる人が多いようです。都市自体が日本経済の大野(「山村は貧困で都市は豊か」と思って

市の分析がいま非常に必要だと思います。市の分析がいま非常に必要だと思います。もちろんいまの山村が理想的なものといっているわけではない。都市と山村を、「豊か、貧困」「高い生産力、低い生産力」と対置して単純に考えいます。もち矛盾したものを集中して持っており、そのこと矛盾したものを集中して持っており、そのこと

うみ出されるものがあるはずです。って交流することが大切です。その実験の中でって交流することが大切です。その実験の中でうするか、それをむつかしく考えないで、営林話する場がほしいです。森林会議の構成員をど話する場がほしいです。森林会議の構成員をど

## 計量できぬものの価値を発見

ってこないとすすまない。 行政も、国有林も、小規模経営、労働者など入方にはつながらない。そういう経営者もふくめつやるか ― を相談しても、山村の新しい生きついるか ― を相談しても、山村の新しい生き

うね。 大野 異質の者が集まると当然違和感があり大野 異質の者が集まると当然違和感があり

内山 自然のもっている計量化できるものを仕事さゃならない。いまは計量化できるものを仕事ないか。そのためには相当なムダな議論もしなをうまく活用して仕事にしていくことが必要で

保障した森林会議にしたいと思います。 保障した森林会議にしたいと思います。 になる。そうしたムダな議論ができることを 能になる。そうしたムダな議論ができることを 能になる。そうしたムダな議論ができることを になる。そうしたムダな議論ができることを になる。そうしたムダな議論ができることを になる。そうしたムダな議論ができることを になる。そうしたムダな議論ができることを になる。そうしたムダな議論ができることを になる。そうしたムダな議論ができることを

松澤 計量化できないというと、教育の問題 松澤 計量化できないというと、教育の問題 をあります。都市の学習の受動化、個人競争学習、全山村は内発的学習、親和的学習、作業学習、全山村は内発的学習、親和的学習、作業学習、全に優位な面もあります。都市のいい面をとり入れた生活の改善も結構ですが、山村のいい面はれた生活の改善も結構ですが、山村のいい面はいのですから、こういうことも、森林会議で議会にいい。

て山村の生活と都市的な生活が全く乖離してい都市の生活が入り込んできています。それでいない。ところが、すでに山村という入れものにない。ところが、すでに山村という入れものにたいかれる。しかし、山村では生産しなけてともいわれる。しかし、山村では生産しなけて上村の生活と都市的な生活者が住めばいいという大野、山村に年金生活者が住めばいいという

### 龍神村林業開発会議

### 〈措 成〉

参画年 龍神村……村長が任命する職員2名 45 森林組合……代表者2名 林業懇話会……代表者2名 林業改良指導員……龍神駐在1名 苗木生産組合……代表者2名 林業技術者協会……代表2名 林業研究会……代表者2名 46 村議会……商経・総務委員長2名 47 田辺営林署……龍神駐在2名 " 農業協同組合……代表者2名 53 建築組合……代表2名 59 木材加工グループ……代表2名 < 会 議 > 、

定期委員総会 年1回 本会議 年2~3回 林業まつり実行委員会 年3~4回 小委員会 年6~7回 (必要に応じて専門部会を設置する)

### <いままでの主な活動>

- 1. 良質材牛産のための技術者養成
- 2. 良質材生産のための第1次及び第2次技打 ち 100 万本運動の推進
- 3. 林業広報発行(年6回)
- 4. 林業まつりの実施
- 5. 林業移動相談室の開設
- 6. 間伐技打ち普及のための啓発(展示林の設 置。研修会等)
- 7. 龍神・愛林音頭の作曲, レコード化, 踊振 付け
- 8. 教育映画(16ミリ)製作
- 9. 林業振興大会(1・2回), 複合経営シンポ ジウムの開催
- 10. その他、地域林業振興にかかる研究と各種 事業の実態

### <龍神村寸描>

和歌山県の中央部、奈良県に接し日高川の上 流。 25.458 ヘクタールの 95 %が森林。民有林 22.622 ヘクタール。国有林 1.545 ヘクタール。

産を考えないと山村らしさ、 村の人は嘆くだけでなく自然条件を生かした生 このままでは都市と山村の乖離は埋らない。山 から派遣されて来た教師たちは立派な宿をあて 森林会議」なんですね。 いつづけてきました。この問題を考える場が 「世ない。このプロジェクトもそういうことを 日曜日には車でどこかへ行ってしまう。 山村の文化はうみ

子ども達の教育をみてもそうです。

他所

## 交流・公開の中から生みだす

用対策の協議会など各地にすでに提言に似たも を持っているところもある。 竜神村の開発会議、 北海道上川 竜神村の開発会 町 Ó

> やすい。 いる。 とで出たものは、 議も森林所有者も入れば、 プなどいろんな層が入り話し合っている。 こうした行き方に自治体が目を向けてきて そういう所では、 森林組合、

すね。 阻害要因があって困っている所があるんではな の議会ではこんなことを議論するらしい」とか 有林はこんなことを考えているらしい」とか「次 言が少しでも役立てばよいと思います。 松澤 その点で重視したいのは公開の原則 か。その阻害要因を取り除くのに私たちの 大野 会議にでた人だけでなく、村の中に「国 現場でいろんなことを努力しているが で

行政に反映されたりもしてい この提言は生きていき 技研グル そ

要ですね。 ではこの辺で。どうもごくろうさまで

大野

いかも知れませんが、 まだ議論の段階のものを村の人にいうことはな 思ったんですね。実際は、 が村の中に流れ、それを考え合うことにしたいと そこへ向けての努力が必 営林署の人が来て、



### 提言(案)

## 民のための国有

―― 地域に根ざした公益性の追求を提

言する

あります。「国際森林年」とされたのも、その現われですます深まるばかりです。昨一九八五年がすます深まるばかりです。昨一九八五年が滅、荒廃に対して、世界の人々の危機感はまく、世界的に急激に進みつつある森林の消

に違いありません。
に違いありません。
に違いありません。
に違いおりません。
に違いおりません。
に違いおりません。
に違いおりません。
な林の荒廃はわが国においても例外ではな

がえるように、 役割を担っているだけでなく、 度・運営を抜本的に改革し、 林にかかわる問題ですが、とくに国有林の制 林業経営体となっています。 いうまでもなく国有林野は、 めることは、 図るとともに、 二〇%余を占め、 地元の山村経済にとって、 森林の復興、 自然公園などであることからもうか 何よりも急を要することです。 治山・治水その他の環境保全 これを真に国民の財産たらし 緑の活力の回復はすべての森 多くの山村において最大の きわめて重要な それは林業生産 わが国の林野の その活性化を その六〇%が

のうえでも重要な遺務を負っています。そののうえでも重要な遺務を負っています。それを国民のために真に役立つように運め、それを国民のために真に役立つように運め、それを国民のために真に役立つように運め、それを国民のために真に役立つように運め、それを国民のために真に役立つように運め、それを国民のために真に役立つように運め、それを強い、林業を復興し、かつ過疎化のいちじるといいはするとは、

8 の て深刻になっているもとでも、政府は国有林 っていませんし、 ことは第二次大戦後になっても本質的には変 ほしいままに管理し運営して来ました。その 明治この方それは「お上」の財産とされ、 元民までを含む国民を排除したうえで政府が に保育され利用されるべきものです。しかし 民の福祉のために、国民の意志と参加のもと みに汲々とし、 』事業特別会計の赤字解消を優先させること ております。 国有林は本来国民の共有の財産であり、 今、 かえって国有林の破壊を強 国有林の危機がきわめ 地 玉

真に国民の財産とすること、そのもとで国民われわれが国有林を国民に開放し、それを

観点に立ってのことであります。復を図るべきことを提言するのも、こういうの総意と総力とを結集して国有林の活力の回

### (提言)

### 一、基本的方向

びしい批判を浴びることになった。 されたりしたことなどは、 える国有林で、 いてきたことは否めない。とくに奥山をかか **キなどを植える拡大造林を積極的に進める反** を急ぐあまり、天然林を伐採し、 護の必要が強調されるようになっている。 の保全、 になった。学術・文化の面で価値の高い自然 保健休養、教育の場としても重視されるよう くの公益的機能をもっている。さらに近年は、 源のかん養、国土の保全、大気浄化など、多 しかし、戦後のわが国の林業は、 森林は、 森林の公益的、社会的機能への配慮を欠 種の保存などのためにも、 木材を生産するだけでなく、 ブナなどの大面積皆伐が強行 自然保護の面でき スギ、 森林の保 木材生産 ヒノ

のである。

全・形成を両立させることが求められているなければならない。木材生産と自然環境の保機能を重視した開かれた経営・管理が行われ

まなければならない。 体化を強め、 であるといえよう。 時に、 じて、 振興をはかり、 の連帯をめざして、 今後の国有林は、 めに役立てるのは、 な蓄積をもっている。 経営団体であり、 ているのは、 刻な危機に直面しているにもかかわらず、 期不況と住民の高齢化、過疎化によって、 方では「国有林離れ」が指摘されるにいたっ 森林・林業の担い手である山村が、林業の長 に寄与した歴史をもっている。ところがいま なければならない。 多くの山村で、 国有林野事業はまた、 (公有林・私有林を含む以下同じ) 国有林は山村の救済、立て直しに大い 地域経済の発展に大きな役割を果たさ まことに残念というほかはない。 また山村住民と広く一般国民と 地域社会の発展に積極的に取 地元の地域社会および民有 技術・施設・人材等の巨大 国有林野事業は最大の林業 このような観点に立って、 国有林に課せられた責務 森林資源の充実と林業の 昭和のはじめの経済恐慌 その力を地域社会のた さまざまな活動を通 との 深

た経営・管理の方式が確立されなければならとの強い認識のもとに、国民のために開かれ財産(官有)であるよりも、国民共有であるなれを要するに、国有林については、国の

なのである。 ために、国有林野事業の抜本的な改革が必要 ために、国有林野事業の抜本的な改革が必要 ために、国有林野事業の技本的な改革が必要 ために、国有林野事業の技本的な改革が必要 ために、国有林野事業の

( ) ha

### 一、解決されるべき問題

同体制の確立 1. 国有林野事業の分権化と地域林業への協

また、そこでは林業以外の国有林野の利用 を設けて、 の仕方についても十分な意志統一がおこな 協同体制を確立することが不可欠である。 林会議」がその場になることもありうる? 域協議の場 た林業関係者や住民の代表などを中心に地 ることになろう。それには、 る力を活用すれば、 はかるうえで、 国の森林資源の充実・整備・林業の再建を 優秀な技術をもつ専門家集団である。 て大森林所有者であり、 翼を担う経営体として参加し、 れる必要がある。 一要な課題であるが、 国有林野事業は、 民有林と一体化した地域林業の (注・山村チームの提案の「森 地域林業の振興はきわめて 多くの山村地域に 大きな役割を果たしう 国有林が地域林業の 整備された組織と 国有林を含め そのもて お

に、計画作成者や計画作成の単位区域などが地域林業と有機的関係を保持できるよう階まで委譲するとともに、「地域施業計画」は。国有林は権限をできる限り営林署の段は。国の地域協議を十分に機能させるためにこの地域協議を

ながら、 もに、 要がある。 件となる。 地域協議のメンバーとしては、 内の林業行政担当者との交流をはかるとと だけその地域出身者を任用し、 型の人事行政を改め、 八間的信頼関係を保つことが欠かせない要 ついて再検討しなければならない。 任期は少なくとも四~五年とする必 地域の実情に精進するとともに、 そのためには、 営林署幹部はできる 従来の中央主導 さらに地域 当然のこと また、

効活用 2 民有林への積極的協力と低利用林地の有

民有林において労働力のあるところでは民有林作業への参入を考えることも重要であるが他方、国有林が長年にわたって蓄積してきた優れた技術および整備された組織、してきた優れた技術および整備された組織、してきた優れた技術および整備された組織、してきた優れた技術および整備された組織、とはきわめて重要であり、国有林はその実めのための具体策を早急に検討しなければならない。

その場合、国有林は林業および木材産業

ばならない。

「関係の優れた技術を積極的に民有林に普及関係の優れた技術を積極的に民有林に当るようにが保有する生産・研究施設や労働力などにが保有する生産・研究施設や労働力などにが保有する生産・研究施設や労働力などにが保有する生産・研究施設や労働力などにが保有するとに努力するのはもちろん、国有林に普及関係の優れた技術を積極的に民有林に普及

のである。
のである。

のである。

のである。

のである。

のである。

これに対しては、まずその所有者に整備を促すことが必要であるが、それが実行されない場合には、その林地の管理・整備を地条件などを勘案し、場合によっては、その林地を国(一般会計)が取得したうえ、一般の国有林と一体的に運営・管理することが必要とされよう。

3. 森林の総合的利用の促進

林方式に反省が生まれている。林方式に反省が生まれている。
林方式に反省が生まれている。
林方式に反省が生まれている。
林方式に反省が生まれている。
林方式に反省が生まれている。
林方式に反省が生まれている。
林方式に反省が生まれている。
林方式に反省が生まれている。

る森づくりを進めなければならない。を重視し、国民のさまざまな期待に応えうが必要である。すなわち、自然環境の保全は、従来の森林整備の方針を転換することてのような新しい要請に対応するために

森林の自然環境のなかでの野外活動、レクリエーション、山菜やキノコ採り、さらたは青少年を対象とした自然教育など、いたは青少年を対象とした自然教育など、いたは青少年を対象とした自然教育など、いなのであろうが、この面でも国有なの役割はきわめて大きく、保健休養林、おの役割はきわめて大きく、保健休養林、から、大きなが重要である。

積極的に便宣をはかるべきである。 での狩猟や山菜、キノコ採りなどの「遊び」 に対しては、自然破壊を避ける措置を十分 に対しては、自然破壊を避ける措置を十分 に対しては、自然破壊を避ける措置を十分 に対しては、自然破壊を避ける措置を十分 に対しては、自然破壊を避ける措置を十分 に対しては、自然破壊を避ける措置を十分

さらに、保健休養林や教育森林については、第三セクター方式による民間活力の導体への利用権設定などの条件整備も必要である。林業生産の面では、針葉樹の一斉造林方ある。林業生産の面では、針葉樹の一斉造林方ある。

的造成などが実行されなければならない。

4. 農業的利用への協力

要である。 規模拡大のためには、 ることが望ましい。こういう農林家の経営 樹やシイタケ、山菜などの栽培、林間放牧 ついて、国有林が適切に協力することが必 による畜産など、農林複合経営を発展させ ためには、林業と同時に林地を利用した果 ねているが、その経営を安定、 対して国有林は大きな責務を負っている。 の発展が不可欠であり、 山村住民の多くは、 国有林がその使命を十分に果たすため それがよって立つ山村地域の社会経済 林野の農業的利用に 零細規模の農業を兼 地域社会の振興に 充実させる

5. 財政の仕組みを改革

大きな責務を負っている。 大きな責務を負っている。 大きな責務を負っている。 大きな責務を負っている。 大きな責務を負っている。 大きな責務を負っている。 大きな責務を負っている。

したがって国有林野事業特別会計の赤目的の達成にふさわしい形をもって組み立てられなければならず、現行のように国有本が文字どおり「企業的に運営」され、毎年度の収支がつぐなうことを求めることに主眼をおく制度は、もともと根本的な誤りを主眼をおく制度は、もともと根本的な誤りをう政府が臨調路線にしたがって追求や引会計はその

いうべきである。 荒廃を深めるというのは完全に本末転倒と字解消のみを優先させ、かえって国有林の

有林かということになるであろう。
有林かということになるであろう。
有林かということになるである方。
現在の国有林経営には改善を要する面も現在の国有林経営には改善を要する面も現在の国有林経営には改善を要する面も現在の国有林経営には改善を要する面も、

則を確立すべきであろう。 として国(一般会計)が負担するという原 ては、それは国民福祉のための公共的費用 事業について、右にみてきたようなあらゆ 無理なく得られる収益を超える費用につい の施業計画を策定する、そしてその範囲で るその機能を十分に果たしうるような長期 謳われるだけである。そのうえで、 はこの目的さえ法律上明示されていないで、 目的を明確にすることが必要である。 るためには、 林にふさわしい形のものに抜本的に改革す 現行の財政の仕組みを国民のための国有 行政の便宜でいういろいろなことが なによりもまず国有林経営の 国有林 現在

れていることを強調したい。百年の計として、高い政治的決断を求めらり育て、美しい国土を子孫に引き継ぐ国家国有林の財政改革は、わが国の森林を守

## 〔提言の根拠 ― 国有林の現状と課題

### 、従来の国有林の功罪

すことのできない効果であった。 い下げが地元の経済に与えた利益なども見逃 発達に及ぼした影響や、 積された技術、経営方式などが民有林経営の 国有林の復興資材の供給が大きな役割を果た とくに震災、戦災その他の非常事態にさいし、 めに、 したことは忘れられない。また、この間に蓄 は果たしてきたと評価することができよう。 ってよく。治山・治水・環境保全の点でも、 点で比較的良好な運営をおこなってきたとい 木材の安定的供給の点でも、 有林は植樹、 激化させたこともあったが、概していえば国 林はそれなりにその使命を果たしてきた。た 大面積皆伐を中小とする過伐が強行されたた しかに戦争中から戦後の高成長にいたる間に、 治から昭和四十年代にいたるまで、 国土の荒廃を進め、 管理、 保有、 国有林の生産物の払 計画的施業などの 水害や土砂崩壊を その使命を一応 玉

の専制的支配を当然のこととしていた明治憲の専制的支配を当然のこととしていた明治憲して十分反省されなければならない点である。としても、他方、それが「国」の財産としてある。もちろん「民」を被治者として位置づけ、「官」の財産とはなっていなからなが、「国民」の財産とはなっていなからなが、「国民」の財産としていたが、「国民」の財産としていた明治憲の専制的支配を当然のこととしていた明治憲としていた明治憲の専制的支配を当然のこととしていた明治憲としていた明治憲の専制的支配を当然のこととしていた明治憲としていた明治憲としていた明治憲としている。

地元民がそれをむしろ対抗物として意識する るものだったのである。 ようになったというのも、 国民の大部分が国有林について無関心になり、 きわめて異常な事態であったといっていい。 疎外されてきたということは、考えてみれば ものとされ、 林が依然として「国」の専一的支配に属する し戦後の新憲法体制のもとにおいても、 自然の成りゆきであったかもしれない。 法体制のもとでは、 下々はそれから排除されるというの 「民」が、そして地元民までが 国有林がお上のものであ その「倒錯」によ 国有 しか

## 一、最近における国有林の状況

拍車をかけている。 変らず乱開発が進められていることがそれに っていることに由来するが、 が粗放化され、 価格の長期低迷と山村の過疎化。 民有林の場合には、 開放体制の進展のなかで、 速に活力を失い。 の進展によって、 しかしオイル・ショツク以後の長期不況と 部では施業放棄にまでいた 荒廃を深めるようになった。 この荒廃は主として木材 間伐をはじめ保育・管理 わが国の森林は急 都市周辺では相 住民の高齢

いては人べらしと手抜き施業が推し進められがある。その線に沿って、国有林野事業にお改再建を最優先させる政策の強行にその原因字の拡大、地方における臨調路線に従った財主、一方における国有林野事業特別会計の赤も、一方におけ、国有林においては、何よりては人べらしと手抜き施業が推し進められ

るにいたっているからである。 国有地の無計画な売却などが広範に追求されているばかりでなく、奥山の天然林の乱伐、

## 三、国民不在の国有林経営改善方策

毛すじほども見られない。 が貫かれていることである。明治この方の国 なやり方で「改革」を図ればいいという態度 有林の体質についての反省と是正の努力とは 志や利害とは無関係に、中央集権的・官僚的 として国有林は政府のものであり、 を推し進める意味をもつものといっていい。 く対処するものでないのみか、かえってそれ であり、右にあげた国有林荒廃の原因に正し の「合理化」「改善」を進めようというもの それは財政再建を優先させ、そのために事業 革」に精力的に取り組みつつある。 の改革推進について」という答申(一九八四 一月)を基礎として、国有林野事業の「改 最近、 何よりも問題なのは、ここでは依然 政府は林政審議会の「国有林野事業 しかし、 国民の意

## 四、国有林野事業特別会計の問題点

である。
である。
のののである。
である。
のののである。
のののである。
のののである。
ののののでは、さきにふれたように国有林野事業大の原因は、さきにふれたように国有林野事業がのがある。

ない。 うえ国有林には多くの社会的・公益的機能が る。 課せられている。それは国民生活にとって計 と自体がいかにも無理な原則であるが、 ħ 収益をもたらすものでないことはいうまでも り知れない価値をもつものであるが、 林業経営に単年度ごとの収支均衡を求めるこ たものであり、国有林が「企業的に運営」さ この特別会計は昭和二十二年度から発足し その間さまざまの経済変動にさらされる しかし、植樹から伐採までに数十年を要 毎年度の収支が均衡することを求めてい 直接に その

五彩、(事業収入の四五彩)にも達している たのうえ、現在特別会計が大幅な赤字に陥れてはるのは、無計画な輸入の拡大によって にといるのは、無計画な輸入の拡大によって は したこと、経済性の低い私有保安林 を大量に買入れたこと、経済性の低い私有保安林 を大量に買入れたことと、経済性の低い私有保安林 で補塡してきたなどの結果として累積債務が て補塡してきたなどの結果として累積債務が て補塡してきたなどの結果として累積債務が とのうえ、現在特別会計が大幅な赤字に陥 そのうえ、現在特別会計が大幅な赤字に陥

国軍本に国売がなりなりは、ですりで記りているためといわざるをえない。こと等いわば過去の「失政」のツケがまわっ

則を立てるべきである。

国有林に国民が求めるのは、木材の安定的関を立てるべきである。
国有林野の財政はそのことを前提としたが、その範囲での合理的な事業収行を優先させ、その範囲での合理的な事業収入に対して不足する分は国民福祉のための公人に対して不足する分は国民福祉のための公司を優先させ、その範囲での合理的な事業収入に対して不足する分は、木材の安定的国有林に国民が求めるのは、木材の安定的国方が大学である。

現行のように会計の赤字の解消のみに固執し、人べらし・土地売却・手抜き施業そして というしかない。それでは国有林の荒廃を一というしかない。それでは国有林の荒廃を一というしかない。それでは国有林の荒廃を というしかない。それでは国有林の荒廃を でおいしていい。

### お願い

れをふまえて修正の上総会で決定公表します。らお寄せ下さい。次号に御意見を掲載し、そこの「提言案」についての御意見を全会員か

## 提言をまとめて

今回の提言の背景といいますと。

わけです。 日本全体の森林の活性化は図れない、と考えた 時にはまず国有林をきちんと建てなおさないと、 どに入っていることからも、緑の問題を考える の三割を占め、その六割が保安林や国立公園な まっていますが、わが国の国有林は全森林面積 大内 国民の間に緑の保全について関心が高

正しく対処しないで、口では「国有林の再建」 急速に荒廃を深めているし、政府はこの問題に しかし、国有林は財政問題とのからみもあって、 り、地域によっては国有林以上に荒廃している。 「改革」とかいっているが、実は目先の「財政 無論今日では民有林も色々な問題をもってお

> 進める結果になっている し、それを国民のための財産として、すなわち 赤字対策」だけに狂奔し、 \*山 \* \* 緑 \* にたいする国民のニーズにきちん かえって山の荒廃を

## 国有林をきちんとしないと

方ではできるだけ経費を節約して「合理化」を が、集中されるようになった。そのために、一 別会計についても、その建て直しに政府の対策 という点は共通ですが、「臨調」以来、財政再 建ということが 第一義になり、国有林野事業特 の場合も木材価格の低迷が収入の悪化を招いた た手入れができなくなったということが、その 山村住民の高齢化と過疎化が進み、きちんとし 材価格が低迷して採算がとれなくなった、また が増えた反面木材需要が伸び悩み、その結果木 荒廃を引き起した最大の原因でしょう。国有林 大内 わが国の森林・全体をみると、輸入材 国有林の荒廃といいますと、どんな。

うということになったわけです。 と応えられるようなものにする方策を提言しよ こういう情勢を考えて、 今回は国有林を見直

> 大名誉教授にうかがってみました。 いて、プロジェクトの責任者である大内力東 た「国有林問題への提言」(案=別掲)につ 「国民生活と森林」プロジェクトがまとめ

欠けているのです。 保全し、森林の活力を高めるという配慮が全く 民の仕事を奪ってもいます。要するに"金勘定" りまでやっている。さらに人減らしの一環とし 伐りをしたり、ひどい場合には国有地の切り売 収入をふやすために、目につかぬ奥山の優良天 のもとにサボっているのです。また、他方では ている。伐採跡地の造林さえ「天然更新」の名 保育・管理をきちんとしないという結果を招い し、経済性を追求するということになったので が先行して、国民のための国有林を豊かな形で て立木のままで販売する方式が拡大され、山村 然林を乱伐したり、やみくもに良木のみの抜き すが、実はそれは施業の手抜きをして、山林の

勢はちっとも変っていない。国民に問題を投げ ことまで国有林の危機が深刻になり、その再建 うに意識する傾向が見られたのです。ところが、 ら国有林にたいしてはむしろこれを敵対物のよ 勝手に経営・管理してきた。そのため地元です が国民的課題になっているのに、政府のその姿 いながら、明治この方国民不在のままで政府が しかも悪いことには、国有林は「国有」とい



破壊することに終っているのですね。できると考えている。その結果、実は国有林を官僚的に作った得手勝手な計画にそって再建ががら国有林の建て直しをするというのではなく、かけて、地元の人をはじめ広く国民と協力しな

## 下から上への協議組織で

うことです。
て、国民の参加のもとに経営されるべし」とい産であって、国民のために、国民の意思に従っ産であって、国民のために、国民の意思に従っ大内 一番大きな目玉は、「国有林は国民の財ー― そういう荒廃にたいして提言案では。

から始めようということになります。 ともある。要するに村ごとの協業体を作ること 逆に民間の労働力が国有林の仕事に参加するこ 術や施設および要員が民有林の仕事のおくれて まり、 いるところに力を借すこともあるのでしょうし うということです。そのためには、国有林の技 でなく、すべてを地元の山として地元が責任を 組織」づくりを提言しているのがそれです。つ 必要だという点です。具体的には「地域の協議 決めていく。いいかえれば、国有林の施業を地 とに山のあり方を、地元の住民の意志によって 地元の公・私有林と国有林を一体化して地域で 上から官僚的に中央集権的に管理するのでなく 元と協力し一体化させながらやっていく態勢が そのための提言のポイントは二つあります。 つは、国有林を林野庁―局―署―担当区と 共同して施業を実施していく体制を作ろ 所有形態に従って山をタテ割りにするの

> でも期せずしています。 でも期せずして「森林会議」という点では考るでしょうが、要は、「上から下」へでなく「下と一致するかどうかは地域によって差が出てくと一致するかどうかは地域によって差が出てくるでしょうが、要は、「上から下」へでなく、「下山村問題と林業の担い手」のプロジェクト「山村問題と林業の担い手」のプロジェクト

また、国民の森林へのニーズは、木材生産だけでなく、森林の幅広い公益的機能から農業と一体となった産業の振興にいたるまで多様です。と一体となった産業の振興にいたるまで多様です。なお、こうした体制を作っていくためには従来の国有林の人事体制を変えていかなければならない。その意味で権限をできるだけ署に下し、らない。その意味で権限をできるだけ署に下し、書の人事は地域の人たちとの交流によっておこまた、国民の森林へのニーズは、木材生産だなうということを提言したわけです。

## 長期の森林経営、財政面でも

ったとおりです。国有林は荒廃するだけだということはまえにいての問題にあります。そこが改善されないと、ていく、いわば裏側の問題、つまり財政についていく、いわば裏側の問題、つまり財政につい

えれば、昭和二十二年に特別会計ができて以来則」を立てることを提案をしています。いいかの前に基本的に発想を転換し、新しい「会計原財源の確保とか、色々の問題がありますが、そ財源の確保とない、色々の問題がありますが、そ

えようということです。いった原則が立てられてきたのだが、それを変いった原則が立てられてきたのだが、それを変独立採算・企業収益的経営・単年度収支均衡と

よって事実上崩れてしまっています ― 。 もともとこういった会計原則は国有林野事業の性格をきちんと考えた上で決められたものとは考えられない。おそらくは、新憲法下で財政は考えられない。おそらくは、新憲法下で財政は考えられない。おそらくは、新憲法下で財政にはいった。対ればならない、そして②戦時中の軍事費特別会計のような長期の会計を認めると、議会や国民のコントロールが出来なくなるから、単年度民のコントロールが出来なくなるから、単年度民のコントロールが出来なくなるから、単年度民のコントロールが出来なくなるから、単年度民のコントロールが出来なくなるから、単年度民のコントロールが出来なくなるから、単年度民のコントロールが出来なくなるから、単年度民のコントロールが出来なくなるから、単年度民のコントロールが出来なくなるから、単年度民のコントロールが出来なくなるから、単年をいる。

点への配慮を欠いた会計原則になっている点が 持ち込んだために、山林経営のような長期的視点が必要なものには合わないような制度になっ てしまったのです。しかも、国有林の事業は木 材生産だけではない。公益的な機能を果たす公 共的事業の性格が強い。こういう公益的ないし 公共的機能は計算上その価値を評価することは できるにしても、すぐ財政収入になるものではない。国民 福祉のための事業なのですね。その点への配慮 できるにしても、すぐ財政収入になるものではない。国民 福祉のための事業なのですね。その点への配慮 できるにしても、すぐ財政収入になるものではない。国民 福祉のための事業なのですね。その点への配慮

大きな問題です。

その上、高度成長期の過伐によって、国有林の資源が涸渇したことや輸入材の関係で木材価格が低迷したこと、財投資金から高利の資金を格が低迷したこと、財投資金から高利の資金をと不合理な会計制度の弊害を極度に大きくしてしまったというのが現実です。今では累積債でしまったというのが現実です。今では累積債でしまったというのが現実です。しかも政府は本来のあり方に戻ってその建て直しを考えるのでなく「当面の赤字解消」のみを考えているのでなく「当面の赤字解消」のみを考えているのでなく「当面の赤字解消」のみを考えているのでなく「当面の赤字解消」のみを考えているのでなく「当面の赤字解消」のみを考えているのでなく「当面の赤字解消」のみを考えているのでなく「当面の赤字解消」のみを考えているのでなく「当面の赤字解消」のみを考えているのでも、財政の健全化のために、国有林の中で採算をとろうとしたら、日本中の国有林を丸裸にしても勘定が合わないでしょう。

のほかに、特定の人が国有林から個別的に受け 合に得られる収入 ― ります。そこで、この計画を忠実に実施した場 十分協議したものを積み上げてつくる必要があ この計画は先ほどのべたように地域の関係者で の目的実現のための長期の施業計画をたてる。 合意を基盤として確立する必要がある。 次にそ らかにし、「役割」「目的」をきちんと国民的 ですが、国民が国有林に何を求めているかを明 的は法制上も必ずしも明らかにされていないの 妙なことに国有林野事業の果たすべき役割や目 こういう財政の仕組みを変えることをとりあえ ず提案しています。そのためには、まず、今は奇 はこれからつめなければなりませんが、提言は こういう累積債務の処理などの技術的な問題 それには林業からの収益

ていくべしというのが提言です。

な益的機能をも含めて国有林を万全に継持・管理していくための費用とをくらべ、もし収入にたすための費用なのですから一般会計が負担すたすための費用なのですから一般会計が負担すたすための費用なのですから一般会計が負担すたすための費用なのですから一般会計が負担するのが当然だ ― こういう考えで財政を運営していくべしというのが提言です。

だけでなく、すべての国民への提言なのです。らこれは政府への提言であるとともに、山村民らこれは政府への提言であるとともに、山村民民が事態を正確に理解し、これを世論としてサースの二つが主要なポイントですが、それは国

## 林業全体の振興も展望し

国有林も林業全体の停滞と関連しています

問題です。この面でも、 がない。人によっては、 ら木材の価格政策のほか途上国が乱伐にならな 国とでは一律に対処できないでしょう。ですか 同じ外材輸入といっても、アメリカと発展途上 けろとかいっただけでは解決できない。また、 るから、ただ輸入をとめろとか、 議として早急に取り上げるべき問題でしょうね。 は立ち入れませんでした。しかし、国民森林会 ような援助のやり方も考える必要があります。 また、木材の需要の拡大ということも大きな 例えば外材対策でも、貿易摩擦との関連があ 大内 それ自体は大きな課題ですから、今回 が、林業全体の問題については --国民の間に意見の一致 「緑は大切だから木は 高い関税をか

化することはできないでしょう。とすると手入れしていかなくては、それを活性しかし、木材生産をきちんとやり、同時に山をが自然破壊だ」とか極端なことをいう人もある。一本も伐るな」とか「木材製品を使うこと自体

えています。
さています。
さています。
との人たちの生活や山村の経済も考えなければならない。そういう意味で、私は適ですから、その人たちの生活や山村の経済も考ですから、その上、木材を生産したり加工したりして生

防法とか都市計画とか、さらには価格競争力と でいうのは簡単ですが、それは建築規制とか消 そこまで考えて木材需要を拡大して林業生産と 化石燃料や鉱物と違って再生可能な資源です。 か、複雑なからみ合いがあります。 結びつけることが必要です。しかし、これも口 資源の消耗でしょう。これにたいして、木材は それを作るためのエネルギーを考えると有限な や石油は有限の資源ですし、セメントにしても セメントは資源は豊富かも知れませんが、金属 る部分にまで代替品が入っています。 を使用すれば国民生活が豊かになり、 いまは、一種の行きすぎがあって、 しかし、 本来木材 快適にな

ないでしょう。題として取り上げて検討していかなければなら国民森林会議としても、かなり長期の研究課

7月

年前の広葉樹林に (3日) 橿原の香久山(標高一五二メート 葉に戻っていた」松枯れ、 朝日新聞奈良県版 万葉集や神話で知られる奈良県 「香久山万 千三百

まれたころはかなりマツが増えた。 り天の香具山」 ぎて夏きたるらし白妙の衣乾した の建築などで乱伐が進み、 イなど広葉樹が主体だったが、 良盆地は約一万年前からカシやシ 耳成山(みみなしやま)とともに したときは、都鎮護の山とされた。 対象で、 南端にある。神話時代から信仰の 当時の広葉樹に植え替えたからだ。 の山を藤原京(六九四ー七一〇) 被害をきっかけに、奈良営林署が 七年前から、それまでのマツ主体 大和三山」と呼ばれ、奈良盆地の 大阪営林局計画課によると、奈 香久山は、畝傍山(うねびやま) 持統天皇が藤原京を造営 (持統天皇)と詠 都

> ますマツが増えたという。 具用に広葉樹が切り出され、 に移ってからは、

百本、 は、 思う」と喜んでいる。 しのぶにふさわしい録の再生だと わせるが、それでも古代の歴史を こぢんまりとした、お宮さんを思 では樹高四メートルほどに成長。 ネズミモ千百六十本を植えた。 同営林署の館山雄一署長は「まだ 紀伊民報 マテバシイ千五百五十本、 一会端材で新容器

要にもつながるとして注目されて はヒノキの端材を利用した梅干の 容器を考案したが、不振の木材需 竜神梅干に風情添える(6日) 林業木工部 日高郡竜神村柳瀬八六九、真砂 (真砂典明さん経営)

(10日)

師梅会社からの依頼で、 これは隣接の南部川村清川の薬 従来品の

さらに都が平城京(七一〇-七八

燃料や農機 ます あるものをと、これまでほとんど 利用価値のなかった根曲がりの端 プラスチック容器にない自然味の

地方新聞・この三ヵ月〉

を始めた。ヒノキ千五百本のほか 奈良営林署は五十三年から、 り始め、五十七年には全滅した。 を受け、翌年から松くい虫が広が しかし、四十七年の台風で被害 すべて広葉樹にし、 クス千五 植樹 は、菓子器やサラダボールにも利 見た目にも健康食品の梅にふさわ の中に五百グラムの梅干がはいる。 ンチ、深さ四センチくり抜き、 五センチ、真ん中を円周四十四セ 用出来るという。 木目が美しいので梅を食べたあと しい容器で、 大きさは十六センチ四方角に厚さ 材を利用して作ったもの。 新容器はおみやげや贈答用で、

白年前の姿に戻った。松くい虫の

九・三七ヘクタール)が千三

品が、少しでも地域産業に役立て 真砂さんは「南部川村主産業の梅 ば」と期待している。 と、当村の竜神材が手を結んだ商 同木工部では数百個作ったが、 県内の若者五一人 王滝植林ボランティ 高い関心

めた。内訳は社会人、大学生、 で大きな被害を出した木曽郡王滝 ィアに、県内の若者五十一人を決 村にヒノキを植える植林ボランテ 長野営林局は九日、 県西部地震 高

回るまずまずの人気だった。 長し、応募者も予定の五十人を上 みが続いたため八日まで三日間延 定した五日の締め切り後も申し込 校生がほぼ三分の一ずつ。 初め予

そ 林教室、 始めた。 行う。県内存在の三十歳までの男 女を対象に六月二十日から募集を 王滝村の御岳国有林で、 同営林局が計画。 御岳に緑を復活させよう ―と、 植林ボランティアは、 自然休養林の見学などを 八月六~八日に 植林、森 若い力で

ヒノキ独特の香りと 関心を高めてもらいたい」と話し 林体験を通して、 ている。 同局治山課は 「参加者には、 森林への理解や 植

8月

吉営林署(1日) めよう 大山で親と子の教室 ■山陰中央新報 森林への理解深

けなどを通じて森への理解を深め 親子は、 いた。参加した十五組、 大山で「親と子の森林教室」を開 と倉吉営林署は三十日、 森林への関心を持ってもらおう、 丸太切りや樹木の名札付 国立公園 四十人の

倉吉などの小学生と親が豪円山の ため、初めて開いたもの。 今年は、 「国際森林年」である 米子や

路を歩きながら、 じている倉吉営林署の資材運搬道 って名札を付けた。 エデなどの木を見つけると競い合 説明を受け、 木観察と名札付けへ。元谷まで通 状などについて話を聞いた後、樹 から森林の役割や日本の森林の現 ふもとの まず同署の福島重忠経営課長 グリーンロッジ 知っているブナやカ 署員から樹木の に集合

を使って悪戦苦闘していた。 挑戦。営林署の用意したノコギリ でヒノキやナラなどの丸太切りに **■紀伊民報** 午後からは、グリーンロッジ前 木工教室イスを手作

柳瀬、 の田辺営林署で開かれた。 午前九時から田辺市新庄町出 共催の小学生の木工教室は、 さん)と田辺営林署(福田茂署長) ボクのイスができたぞ―竜神村 真砂林業木工部(真砂典明 七日

材木

の指導で工作を始めた。 とあいさつのあと、真砂さんから てたもので、 さんお母さんが生まれる前から育 材料が提供されたが、 署から樹齢六十年というヒノキの 「自分で作る喜びを味わって下さ 参加した小学生二十九人に営林 このヒノキはみなさんのお父 大事に使って下さい 福田署長は

> には二十六人が参加する。 取り組んでいた。八日の木工教室 は 田二小六年福田美佳さん(一二) 分の板や脚をペーパーでみがいた 子供たちはイスに腰をかける部 「手作りするのがたのしい」と は「みがくのはかんたんや」、 寸法合わせなど汗だくだった 田一小一年の辻内貴行君

江東区「木の展示館」 オー プン 東京新聞 27日 木材のすべて紹介

二ノ二、東京営林署木材センター 用されているかを分かりやすくみ に完成、二十八日にオープンする。 せる「木の展示館」が江東区潮見 同館では、カラーパネルと実物 木材がどのように製材され、 利

旦

小学生二十九人取り組む

8

生かす」などのコーナーもあり、 を使った家具類を展示する「木を る 0 陳列した「木から材へ」、実物大 カモ居などの部材と各地の銘木を このほか三十種に及ぶ土台、 ある木の優れた特性を説明する。 その四割が人工林という豊かな日 本の森林現況や吸湿性、 」、利用度の少なかった小径木 軸組み工法を展示した 国土の約七割が森林に覆われ、 断熱性の 「木で造

が 分かる。

建物。 ガ」敷きで、 建物自体がモデルハウスになって 屋根を除いてすべて白木造りで、 厚さ三〇センチ)を組み合わせた 四六センチ)と四本の同登梁 柱(長さ一一・五メートル、直径 メートルと四階建。 平屋造りだが、高さは約一二・五 レンガ大に切口を切った「木レン いる。また、同館のアプローチは シンプル構造は、 さ二〇メートル、幅四五センチ、 同館は広さ二百平方メート すべてが木材一色の 塩害防止をした 四本のヒノキ ルの 長

特に「樹から木へ」のコーナーで 木材のすべてを紹介するが 家の大工さんまで幅広く対象にし ている。同館では「一般から専門 得る場、研修の場としても利用し た。木材についての正しい知識を ログハウス(丸太小屋)も展示し てもらいたい」と話している。 問い合わせは、 会場では国産材モデルハウスや (647) 9891 =まで 同センター 11

### 9月

日 る会」伐採反対の趣意書提出 圖岩手日報 一団体で組織した「五葉山の自然 釜石市内の山岳グループなど十 釜石の「五葉山を守 25

木材が家や家具になっていく過程

を守る会」の代表は、二十四日午

林署を訪れ、五葉山国有林伐採に はないと答えた。 省一署長は伐採計画の変更の意志 反対する趣意書を提出した。 上閉伊郡大槌町の大槌営 村山

対を表明し、 原生林は貴重な国民の財産 ―― 五葉山東山ろく二百十九へクター 五人は、同営林署が計画している どを挙げ、 山は動植物生態系が貴重な存在▽ ルの伐採反対の理由として▽五葉 瓦田良喜釜石アトラス山岳会長ら 村山署長は「伐採方法は治山治 守る会の及川穣二釜石猟友会長 自然愛護の見地から反 計画の見直しを迫っ な

行線のまま終わった。 たい」と述べ、両者の言い分は平 の心配はないので理解してもらい 水を十分考えて決めた。災害など

宙に浮いた形となっている。 などの強い反対で、当初二十四日 どが参加し、二十一日結成した。 猟友会、植物研究会、 めた。守る会は釜石市内の山岳会、 員にも趣意書を提出し、 予定していた入札会が中止され、 同伐採計画は、地元唐丹町漁協 守る会はこの後釜石市役所を訪 森真一郎助役、市議会議員全 野鳥の会な 協力を求

## 子どもたちと共に考える

### 木と森の文化史

を加えまとめたものです。 小学生新聞』に一九八三年一〇月から一九八五年 三月まで二八六回にわたって連載したものに筆 るように、「森と人の歩み」という題で『朝日 (朝日新聞社¥1400円)を発刊されました。 この本は「子どもと読む」と副題がついてい 会員の筒井迪夫さんが『木と森の文化史』

林文化」(平安時代)、 のめぐみ」(縄文時代―大和時代)、「独自の森 一万年前の縄文時代から筆を起し、「大自然 「深まる森林文化」(鎌

生活の中での木と森林と日本人のかかわり ―。 じた」 "公私共利"の民族の知恵を知ります。 木材が使われていたことを教えられ(5ページ)、 浜貝塚での出土品から、この頃すでに三四種の 一三〇〇年前の文化の改新で「山野の独占を禁 詩歌に託された日本人の心情、遊びや道具、 縄文前期の遺跡といわれる福井県三方町の鳥

と書きすゝめています。 (江戸時代)、「開発と自然」(明治時代―現代)

倉時代―安土桃山時代)、「自然林から人工林へ」

ています。 文でもあります。「森林と人間との関係をでき どりながら、「いまの日本人の文化」を問う一 した」(あとがき)筆者の意図はみごとに結実し るだけ具体的な事実をもとに明らかにしようと そうした森や木とのつき合いのあとを丹念にた

現在の問題点を紹介していて、二一世紀を展 自然について語り合うための四○三ページのガ 望する手引にもなっています。子どもと森林や イドブックといえましょう。 全」「地球の資源」などと森林の関係について 語ると同時に、「動物」「自然保護」「環境保 終章の「開発と自然」は、明治以来の歴史を

### 会の動 き

### 第 19 回幹事会 (12月14日)

出席者(敬称略) 田中・半田・萩野・小島 隅谷・大内・大野・志村

- 「山村問題と林業の担い手」プロジェクト
- 林問題」の討論経過 「国民生活と森林」プロジェクトの「国有
- 3 の連携を密にし、運動を交流できる『連絡会 緑を守り育てることを目的とした各種団体 「緑を守り育てる連絡会議」設立について

呼びかけ人、設立準備世話人の初会合があっ 議』の設立がすゝめられ、11月30日発起人、 いくことで確認 たことが報告され、今後も話し合いを続けて

 1 入会の承認(敬称略) 野中茂樹(三重県海山町森林組合長) 石牟礼道子 (作家)

湯川 文芸春秋』編集長 (文芸春秋社、『文学界』『別冊

2 修正。この案で1月下旬まで会員の意見を求 言案について。 め、その上で2月15日の第20回幹事会で、幹 プロジェクトからの提案を受け討論し一部 「山村問題と林業の担い手」についての提

> 〇第4回総会 ○第20回幹事会 (評議員会もかねる) 3 2月15日11時 3月29日 (土) 14時から 事会案として固め、 た国有林問題についての提言案について。 総会までの大まかな日程 2 と同じ手続きをへて総会後提言。 「国民生活と森林」プロジェクトのまとめ 総会の討論をへて関係方面に提言。 大日本山林会会議室 『国民と森林』№16で発

プロジェクトの論議(敬称略)

本郷東京大学内学士会分館

10月26日、素案討論(大野、田中、松澤、内山、 ▽山村問題と林業の担い手△

11月8―9日 和歌山県龍神村でのヒヤリング と討論(大野・松澤・内山・真砂・津本・字

11月18日 作業グループまとめ討論(大野・松 澤・内山)

澤•内山)

11月23日 作業グループまとめ討論(大野・松

12月4日 プロジェクト全体討論(大野・田中・

▽国有林問題△ 半田・松澤・内山・大久保・萩野)

10 月 23 日 提言スケルトン素案の討論、 関係資

料の説明(大内・杉本・紫田・北村・福岡・

11月16日 ヒヤリング (小滝武夫会員=林業評 11月13日 フリー討論、スケルトン討論(大内) 論家)、力石定一(法政大学教授)を受け討 杉本・志村・柴田・北村・岡・萩野

11月26日 提言案討議 北村・本間・福岡) 岡・萩野) (大内・杉本・柴田

論(大内・杉本・志村・柴田・北村・福岡・

12月4日 提言案討議・案文の確認(大内・杉 本・志村・柴田・本間)

国民森林会議第四回総会案内

次の日程で第四回総会を開きますので会員・購読会員の方は御出席下さい。

日 一九八六年三月二九日(土) 14 時

所 学士会分館(東大)8号室 東京都文京区本郷七ノ三ノー

◎ ○三一八一四一五五四一

☆なお、総会終了後立食パーティーも予定しています(会費制)。

☆同日11時から幹事会を同分館の9号室で開きます。

後編記集

くれます。 のでした。管理社会への警告ともいえるあの お話しは、真実を見抜く目の大切さも教えて 二カ月』でした。その衡撃の様相を語ってい ただいた座談会は、列島のひずみを物語るも >…「日航機墜落」は〃山村をゆるがした

管理された社会の再生の道にするのか、二つ なった峠の道」について語られていますが、 の提言案が語りかけてくるようです。 れています。それをノスタルジアにするのか、 や豊かさ情報を運んだ峠の道の断絶」を語ら 巻頭の「新春座談会」でも、井出先生が「人 >…あの座談会の中で、内山先生が「なく

慰めています。 さった先生方にこの場を借りて厚くお礼申し のつくりとしてはいささか『芸のない』企画 できるのも、こうした団体の『特権』と自ら 上げます。企画の定石にとらわれない雑誌が ます。素人のまずいまとめに、筆を入れて下 です。が、まとめた文章にない面白さもあり >…座談会三本、インタビュー二本。雑誌

案にたいする会員の御意見を特集する予定で す。ぜひ御意見・感想をお寄せ下さいますよ >…どうぞいいお歳を。次号は二つの提言

## 森林の未来を憂えて

## — 国民森林会議設立趣意書

森林を伐りすぎたため、水資源の不安が強まっています。 日本の風景の象徴である松林が枯れつづけています。近年、台風や豪雪で各地の山林が大きな被害をうけました。また、

大規模に造林を進めたにもかかわらず、その手入れはなおざりにされています。 一九六○年代の高度経済成長のもとで、人びとは農山漁村から大量に都市へ流出しました。とくに林業の分野では、戦後

とに暗いといわねばなりません。 日本の森林は、いま病んでいます。このままではわが国の文化を育んできた森林・山村はさらに荒廃し、その未来はまこ

一、二一世紀初頭までには、地球上の森林の二割が失われるといわれています。人類にとって重要な機能をもつ森林に、私 このような現実を見すごしてよいのでしょうか。いま私たちは、次のような課題の解決を迫られていると思います。

たちはどのように活力を与え、守り育てていくべきでしょうか。

一、森林は、林業にかかわる人びとによってこれまで辛うじて支えられてきました。このままでは、その担い手を失う日が 近いのではないでしょうか。

、いまみられる民有林や国有林の危機的状態は、どのようにして克服することができるでしょうか。、山村に住み、林業で働いている人びとと、都市に住む人たちとはどのように手をにぎり合えるでしょうか。

|、いま、わが国は、木村需要の七割を外材に依存しています。森林資源の枯渇する中で、開発途上国の森林にどのように かかわるべきでしょうか。

子孫に残すために、日本の森林はどうあるべきか、いまこそ国民的合意を高める必要があります。 私たちは、以上のような国民的立場から、将来の森林や林葉、山村のあり方を方向づけ、提言としてまとめ、その実現を このような森林をめぐる諸問題の解決は、決して林業関係者だけにゆたねておくべきではありません。美しい国土と緑を

を望んでやまない次第です。 期したいと思います。このためには、広い視野と長期の展望に基づいた英知の広範な結集がぜひ必要です。 そこで「国民森林会議」を設立し、広く国民・政府に訴えることを決意するに至りました。多くの方々のご贊同とご加入

一九八二年一月九日

### 季刊 国 民 と 森 林 1986年新春号

第15号

- ■発 行 1986年1月1日
- ■発行責任者 隅谷三喜男
- ■発行所 国民森林会議 東京都港区赤坂1-9-13 TEL 03(583) 2 3 5 7 振替口座 東京2-70096
- ■定 価 1,000円 (〒共) (年額 3,000円)